小樽市経済動向調査結果

１．調査期間：2024年4月から6月
２．調査対象：小樽市内の企業266社
３．内　　訳：製造業56、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業45
　　サービス業39、建設業35
４．回答企業数：162社（60.9％）
５．調査方法：調査票によるアンケート

※ＤＩ（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・
好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概　　況

ー業況、売上の好転傾向が鈍化、採算は6期ぶりのマイナス水準、約半数の企業で従業員が不足ー

前年同期（2023年4月～6月）と比べた今期（2024年4月～6月）の状況
今期と比べた来期（2024年7月～9月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは2.6で、前年同期と比べ20.5ポイント低下しました。業況は8期連続、売上は9期連続プラス水準で推移しましたが、採算は6期ぶりにマイナスとなりました。製造業、小売業では主要3項目DI全てがプラスとなりましたが、卸売業ではマイナスとなりました。前期に引き続き、原材料価格や燃料費の高騰、従業員不足が課題で、約半数の企業で従業員が不足しています。

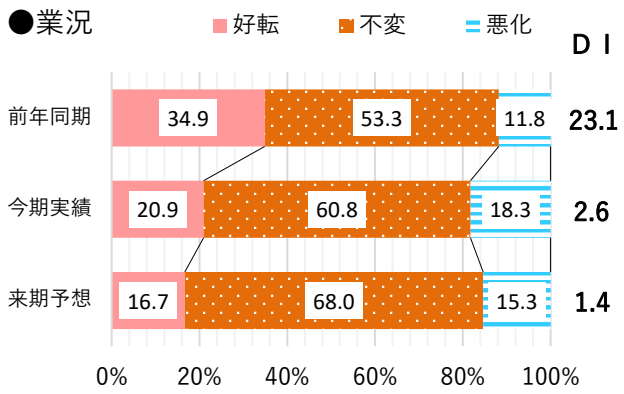
業種別業況DIは、製造業が同19.5ポイント上昇の13.3となり、プラスに転じました。売上DIは低下したもののプラス水準を維持しました。食料品では売上が減少した企業や、採算が悪化した企業はなく、比較的堅調に推移しましたが、プラスチックでは６割の企業で売上が減少し、８割の企業が採算の悪化や引合いの減少、雇用不足に直面するなど、特に厳しい状況にあります。卸売業は同60.9ポイント低下の▲18.8となり、売上DI、採算DIも大幅に低下しました。食料品は全社で仕入単価が上昇しました。小売業は同7.7ポイント上昇の18.2となり、主要3項目DI全てが上昇しました。自動車小売は全社で仕入単価が上昇しましたが、採算は好転しました。運輸・倉庫業は同13.3ポイント低下の0.0で、売上、採算DIがマイナス水準となりました。倉庫では75%の企業で売上、入庫量、保管残高が減少しており、道路旅客運送、道路貨物運送と比べ、特に厳しい状況にあります。観光業は同60.8ポイント低下の5.9となりました。主要3項目DI、客数DI、利用客数DI、資金繰りDI全てが大幅に低下しました。昨年同期との差が大きく、停滞や悪化の傾向が強く表れました。サービス業は同25.0ポイント低下の0.0となりました。採算DIと利用客数DIがマイナスに転じ、飲食店の全社で仕入単価が上昇、半数の企業で客単価が上昇しました。建設業は同10.0ポイント低下の0.0となり、採算DIはマイナス幅を縮めました。一般土木工事業では、採算、資金繰りについて約8割の企業が、業況について約9割の企業が不変と回答し、堅調に推移しました。

来期の業況判断DIは1.4で、業況に大きな変化はないと予想しています。円安の長期化によるインバウンド需要や、販売価格の見直しによる売上の増加を見込む企業がある一方で、各種経費の高騰や人材不足による販売機会の喪失から、こうした状況を利益の増加に生かしきれないと予想する企業もあり、低調な推移が予想されます。

業況、売上、採算

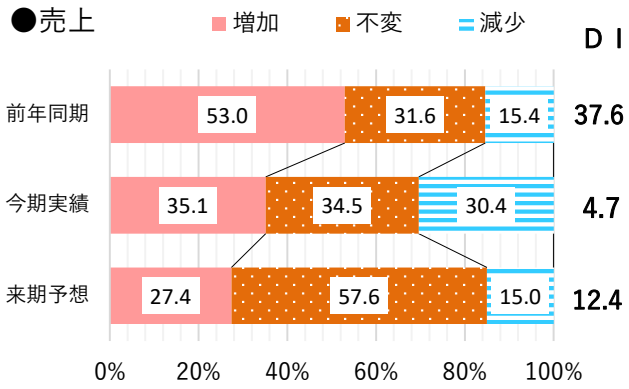
今期（2024.4～6）の業況判断DIは2.6で、前年同期(2023.4～6)と比べ20.5ポイント低下しました。

来期（2024.7～9）は、業況に大きな変化はないと予想しています。



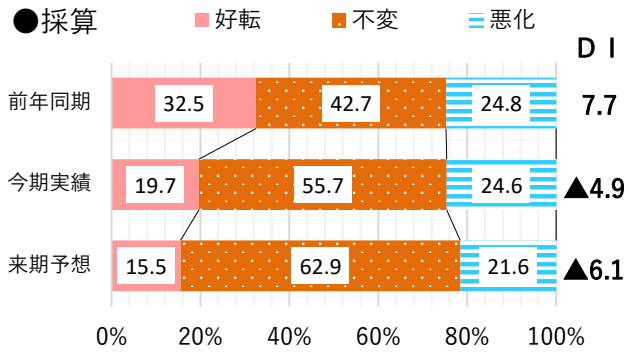
今期の売上DIは4.7で、前年同期と比べ32.9ポイントと大幅に低下しました。

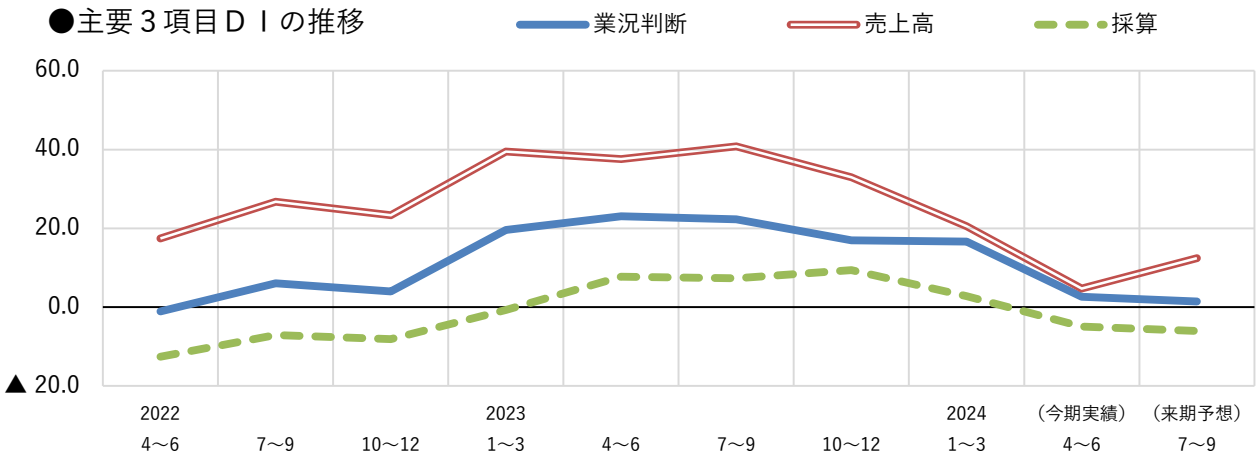
来期は、売上の増加傾向が強まると予想しています。



今期の採算DIは▲4.9で、前年同期と比べ12.6ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算に大きな変化はないと予想しています。

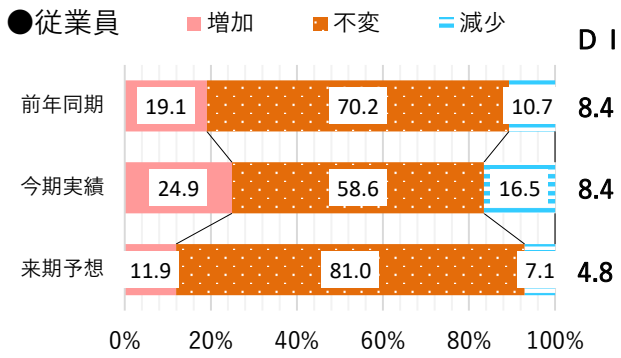




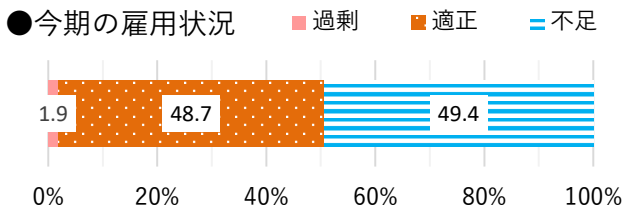
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは8.4で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.9%、適正であると回答した企業の割合は48.7％、不足していると回答した企業の割合は49.4％でした。



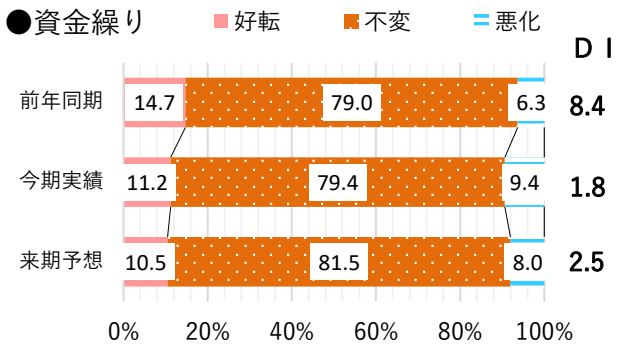
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、31.4%を占めました。49.4%の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	3
	適正	23
	不足	17
不変だった	過剰	0
	適正	51
	不足	41
減少した	過剰	0
	適正	5
	不足	22

資金繰り、設備投資

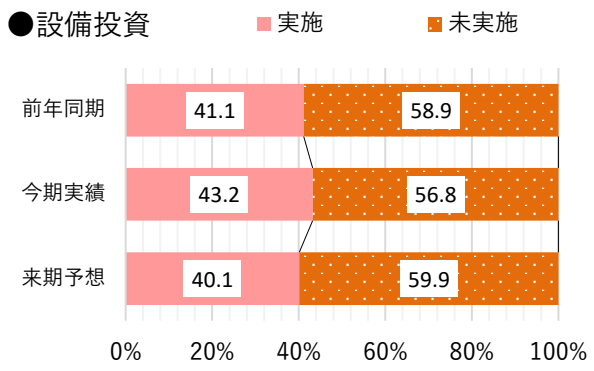
今期の資金繰りDIは1.8で、前年同期と比べ6.6ポイント低下しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった162社の43.2％にあたる70社が実施、前年同期と比べ2.1%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「建物」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期は、40.1%にあたる65社が設備投資を計画していると回答しています。

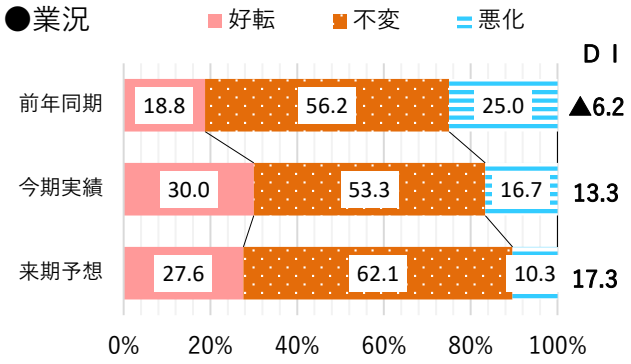


製　造　業

業況、売上、採算

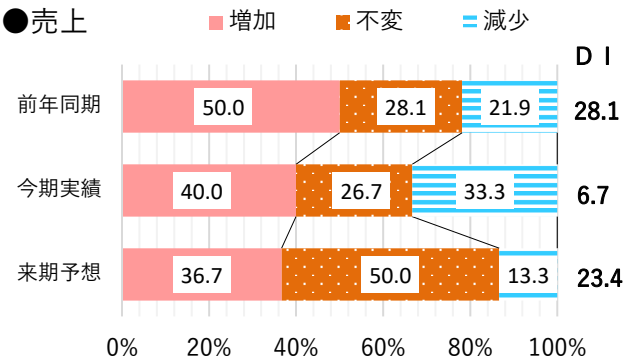
今期(2024.4～6)の業況判断DIは13.3で、前年同期(2023.4～6)と比べ19.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期(2024.7～9)は、業況の好転傾向が続くと予想しています。



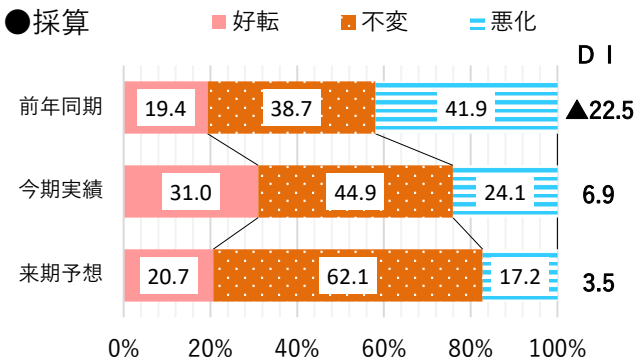
今期の売上DIは6.7で、前年同期と比べ21.4ポイント低下しました。

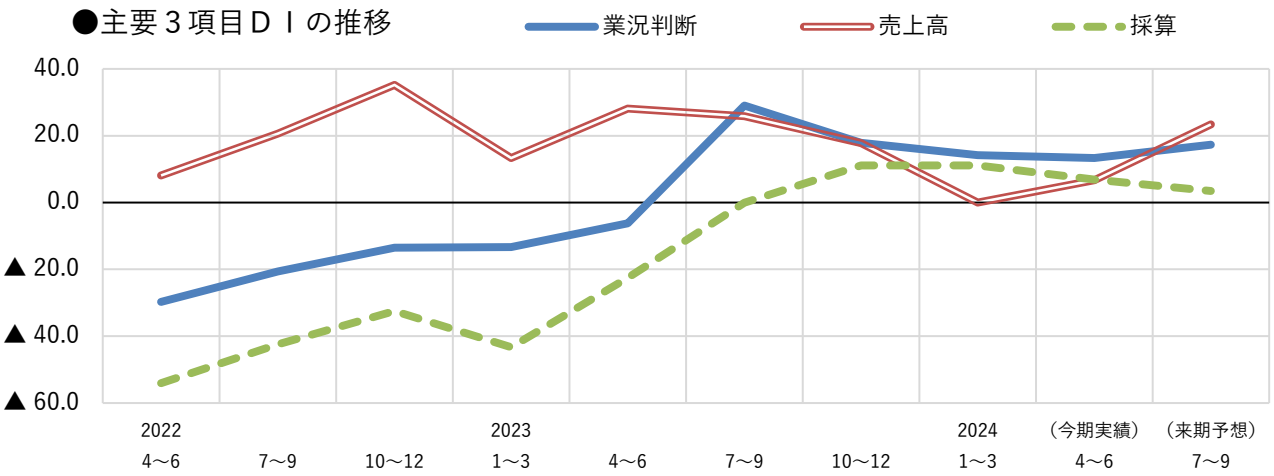
来期は、売上の増加傾向が強まると予想しています。



今期の採算DIは6.9で、前年同期と比べ29.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算に大きな変化はないと予想しています。

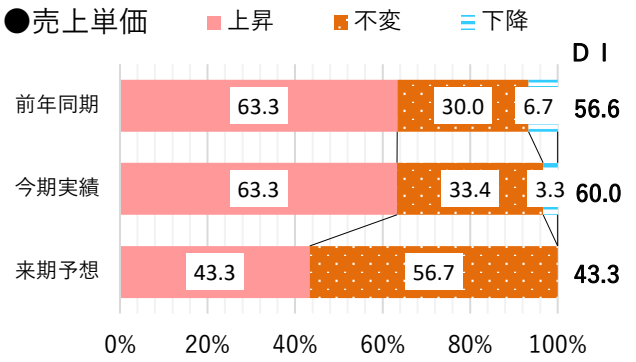




売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

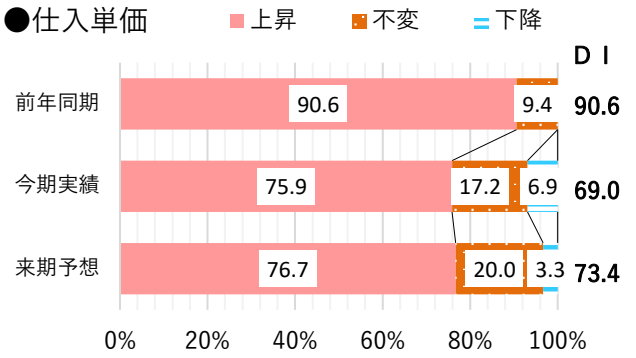
今期の売上単価DIは60.0で、前年同期と比べ3.4ポイント上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



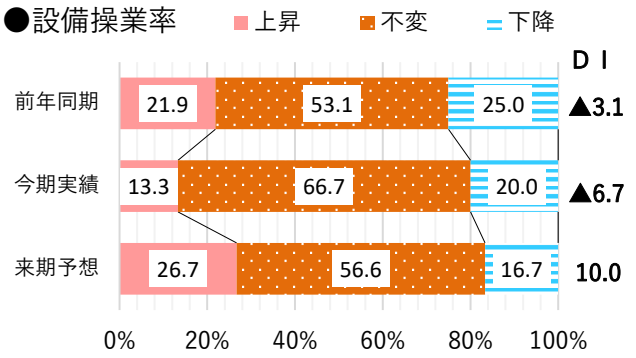
今期の仕入単価DIは69.0で、前年同期と比べ21.6ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲6.7で、前年同期と比べ3.6ポイント低下しました。

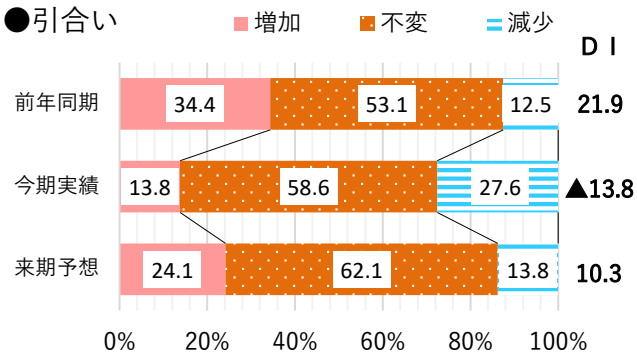
来期は、設備操業率がプラスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲13.8で、前年同期と比べ35.7ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

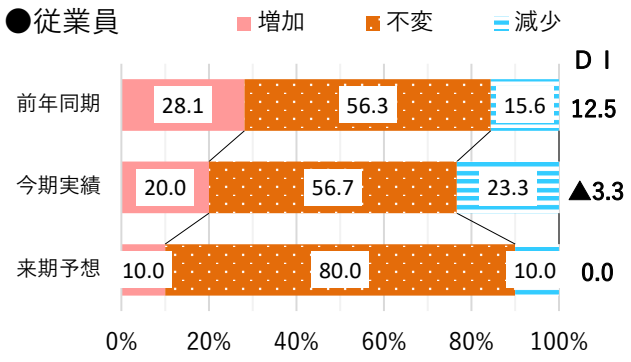
来期は、引合いがプラスに転じると予想しています。



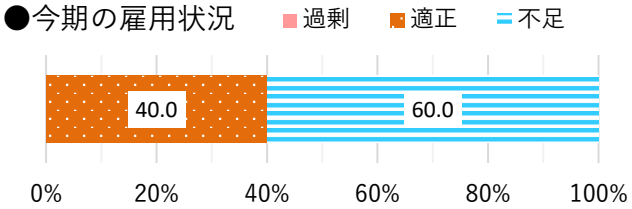
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.3で、前年同期と比べ15.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は40.0％、不足していると回答した企業の割合は60.0％でした。



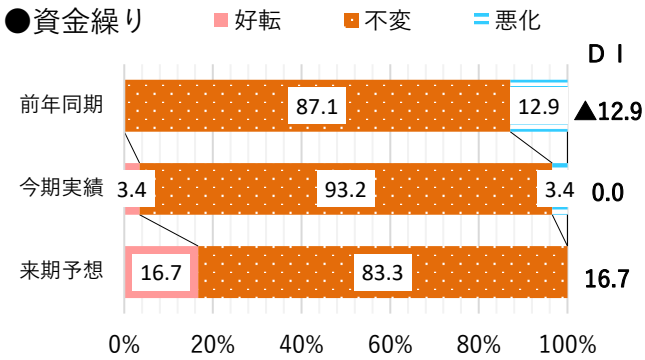
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、30.0%を占めた「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。60.0%の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	6

資金繰り、設備投資

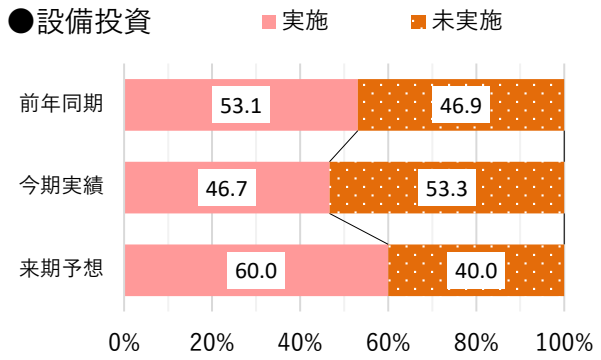
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ12.9ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転を予想しています。



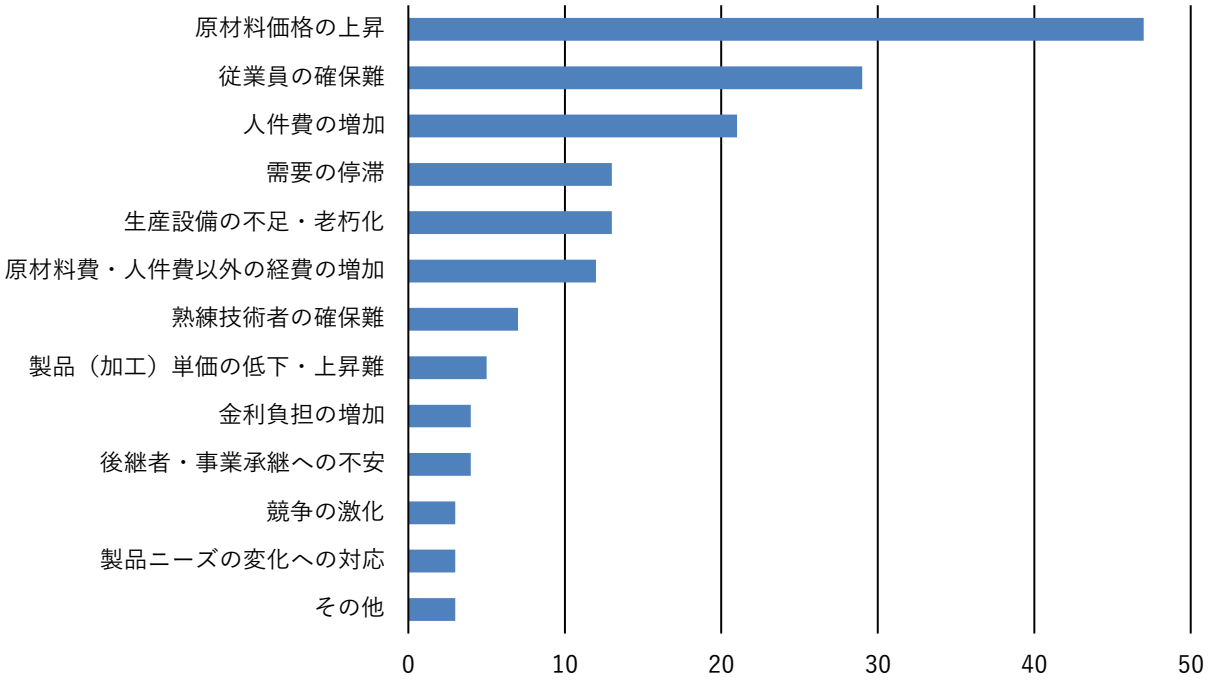
設備投資を実施した企業の割合は46.7%で、前年同期と比べ6.4%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「ＯＡ機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は60.0%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■前期の業績は良くなかったが、今期は改善した。仕入価格は依然として高止まりが続いている。社員が退社したため、来期から採用を進めたい。（食料品）

■コロナ禍の影響でここ３年程売上が減少していたが、今期に入り大分改善された。（食料品）

■原材料費と修繕費が急激に高騰し、製品価格の値上げが追い付かない。（食料品）

■国内向けの販売の回復が想定を下回っている。（食料品）

■主力商品の販売が減少した。（食料品）

■人材の確保が難しい。（食料品）

■年度末まで仕事が決まりそうだが、資材費や電気料金の上昇が心配だ。（金属製品）

■今期の出荷物件が多く、売上、利益は良好だった。（金属製品）

■２０２４年１～３月の売れ行きが芳しくなかったため、今期の売上見込額を下方修正した。６月６日現在で、売上額は目標を上回っている。４月１日の新卒入社が５年ぶりにゼロとなり、後継者の確保は依然として課題だ。６月決算ということもあり、４月からの賃上げは見送った。７月以降の賃上げに向けて、原資となる利益を確保することが不可欠だ。（ゴム製品）
■原材料仕入単価が上昇した。賃金の引き上げを予定している。（ゴム製品）
■価格高騰の影響で需要重量が前期比９６％と減少しており、販売価格は１０２％まで引き上げたが、売上高は９０％にとどまった。この傾向は当面継続すると思われる。円安による主原料、副原料の高騰、電気料金の上昇により収益が圧迫されている。従業員確保のため給与や賞与を引き上げているが、報道で言われている、中小企業の平均賃上げ率４．５％という値には違和感がある。従業員５０人未満の企業では３％台ではないか。製品の値上げ交渉を行っており、少しずつ値上げの効果を実感している。国や経産省、経団連等が製品価格の値上げを推進しているが、商権の消失を恐れて動けない企業もあると思われる。買い手に主導権がある状況は変わらないため、値上げ交渉には時間を要する。（プラスチック）
■物価高による影響が各家庭の消費を抑制しており、一般食品包装資材の出荷量は昨年と比べ減少した。人材確保に苦戦しており、省力化、社員の負担を軽減する設備投資の重要性を感じる。（プラスチック）
■電気料金、消耗品の一層の値上げにより、もう一段階値上げをしなければならない状況にあるものの、価格交渉がスムーズに行われていない。（プラスチック）
■製品値上げにより売上は増加したが、材料費、運賃の上昇、賃上げにより採算は変わらない。（紙製品）
■官需に係る材料入荷が昨年より早く、工場が稼働できている。（その他繊維製品）

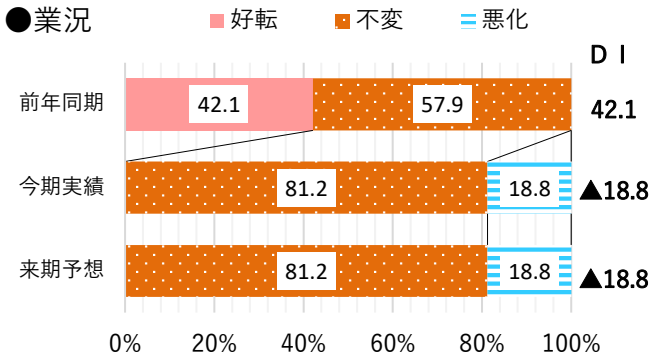
［来期の業況について］
■原料価格、水道光熱費の更なる上昇が見込まれるため、準備をしっかりとしていきたい。（食料品）
■新商品の投入および顧客拡大に取り組むため、販売数の増加が見込まれる。（食料品）
■国内向けの販促を積極的に行い、売上の増加につなげる。（食料品）
■新商品の投入が進み、好転が見込まれる。（食料品）
■人材の確保が課題となる。（食料品）
■資材や人件費の高騰による物件の延期が重なり、来期以降は出荷物件が一時的に減少する。（金属製品）
■決まっている仕事はあるが、資材費の上昇が気になる。（金属製品）
■冬物商戦が始まる９月以降が勝負だが、アパレル業界全体が伸び悩んでいるため、好転への見込みは立っていない。（ゴム製品）
■来期も原材料仕入単価の上昇が見込まれる。（ゴム製品）
■円安に起因する価格高騰のため、需要の回復は現実的ではないが、現在進める販売価格の引き上げを確実に実行し、販売重量の減少を最小限で抑えられれば、売上の増加と採算の確保はできると期待する。最低賃金の引き上げには、これまでと同様に取り組む。（プラスチック）
■円安による原材料価格の上昇、電気料金、運賃、人件費等のユーティリティコストの値上げ要請が大手仕入先からあり、当社ユーザーに価格交渉するも苦戦が予想される。会社を持続させるため、今まで以上に強い姿勢で臨まなければならない。（プラスチック）
■価格転嫁を予定しているが、販売数量の減少により採算の悪化を見込む。社員の高齢化に対応するため、若年者雇用に向けた求人広告を出しているが、反応はない。（プラスチック）
■天候の変動に伴い大きく変化するので、見通すことは難しいが、原材料他の価格高騰が続くようならば悪化を予想する。（紙製品）
■官公庁のユニフォームや雨衣物件の受注が好調だが、それに対応する労働力が不足している。（衣服）

卸　売　業

業況、売上、採算

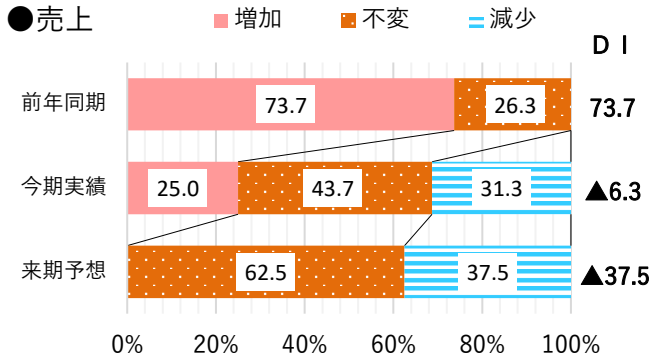
今期(2024.4～6)の業況判断DIは▲18.8で、前年同期(2023.4～6)と比べ60.9ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期(2024.7～9)は、業況の横ばいを予想しています。



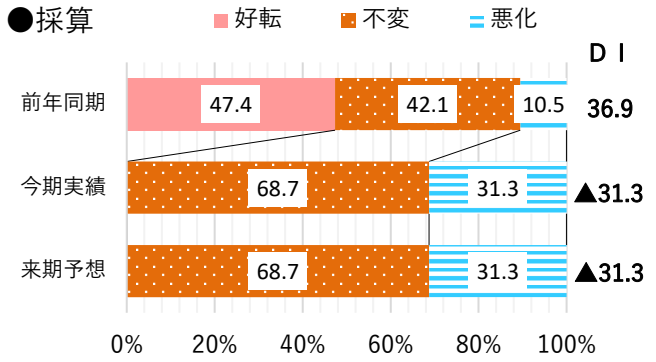
今期の売上DIは▲6.3で、前年同期と比べ80.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

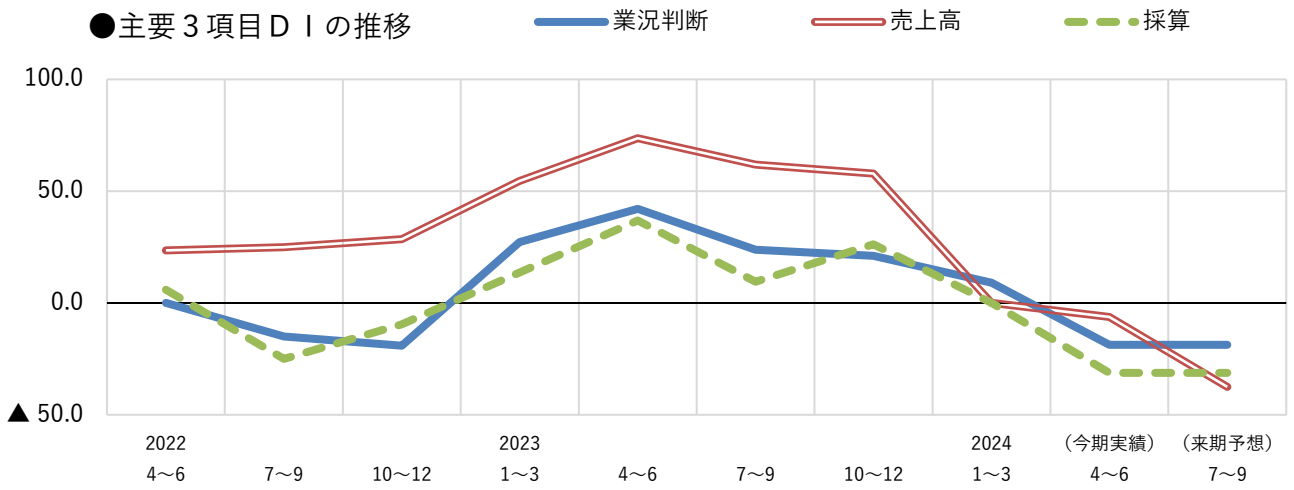
来期は、売上の減少傾向が大幅に強まると予想しています。



今期の採算DIは▲31.3で、前年同期と比べ68.2ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。

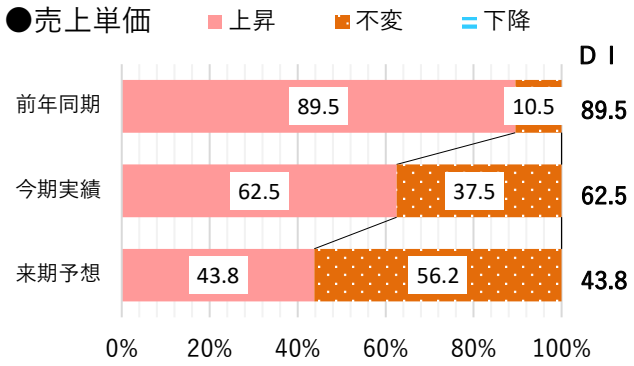




売上単価、商品仕入単価

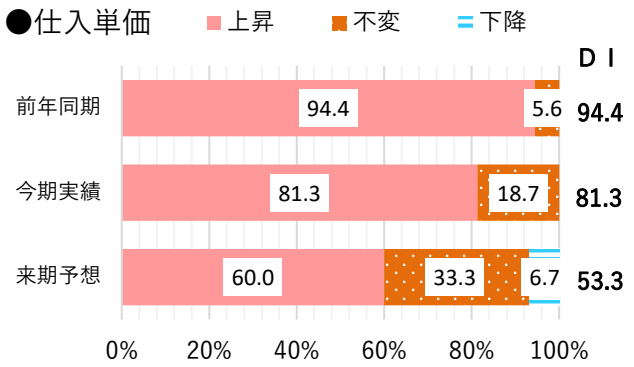
今期の売上単価DIは62.5で、前年同期と比べ27.0ポイント低下しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは81.3で、前年同期と比べ13.1ポイント低下しました。

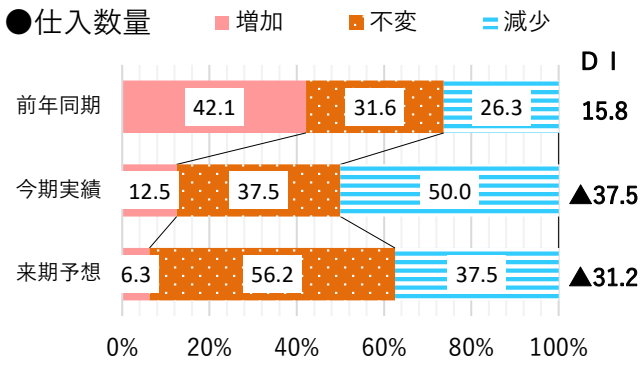
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

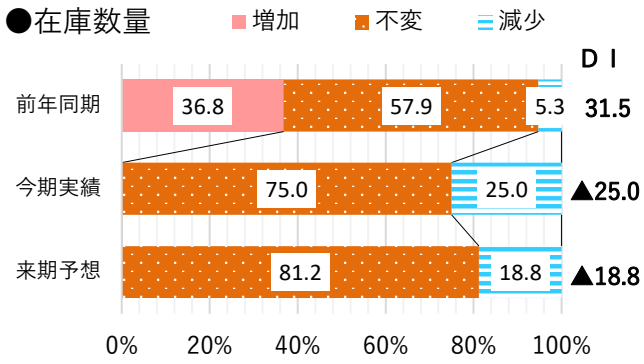
今期の仕入数量DIは▲37.5で、前年同期と比べ53.3ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、仕入数量の減少傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲25.0で、前年同期と比べ56.5ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

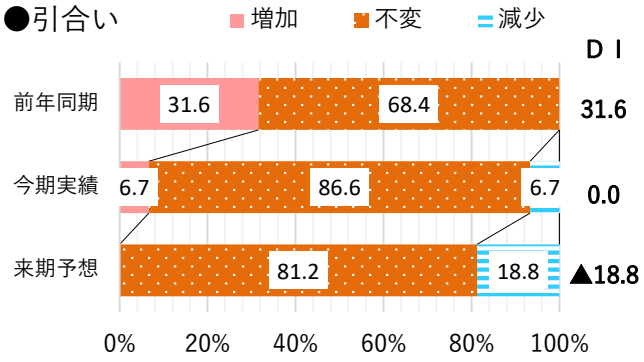
来期は、在庫数量の減少傾向が続くと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0.0で、前年同期と比べ31.6ポイントと大幅に低下しました。

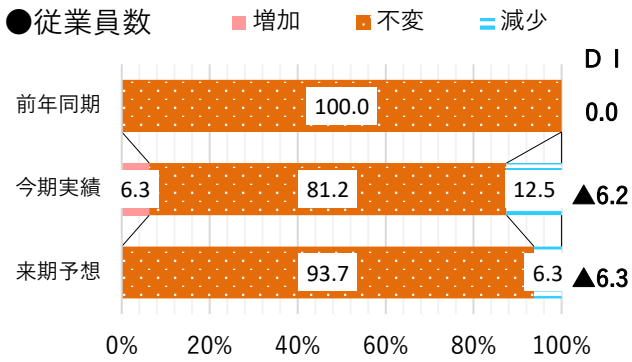
来期は、引合いが減少に転じると予想しています。



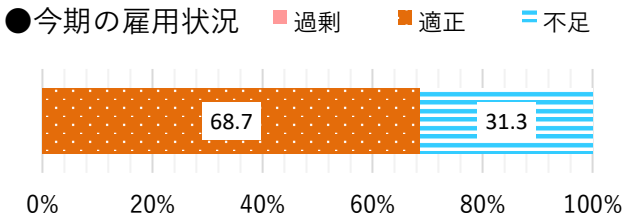
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲6.2で、前年同期と比べ6.2ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数のほぼ横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は68.7%、不足していると回答した企業の割合は31.3%でした。



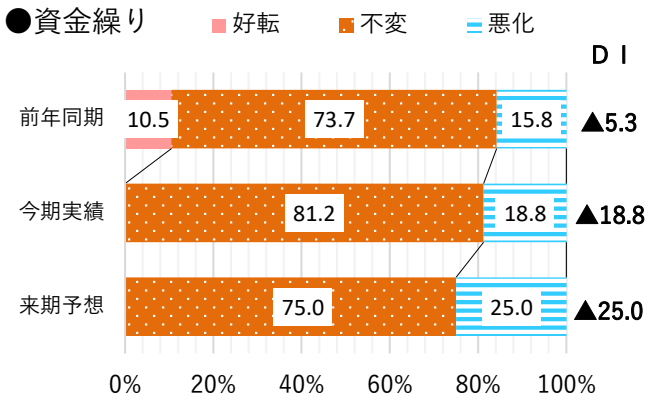
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の62.5%を占めており、不足と回答した企業は31.3%でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	1

資金繰り、設備投資

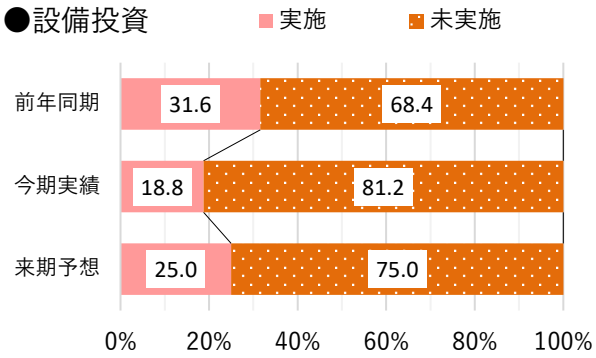
今期の資金繰りDIは▲18.8で、前年同期と比べ13.5ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



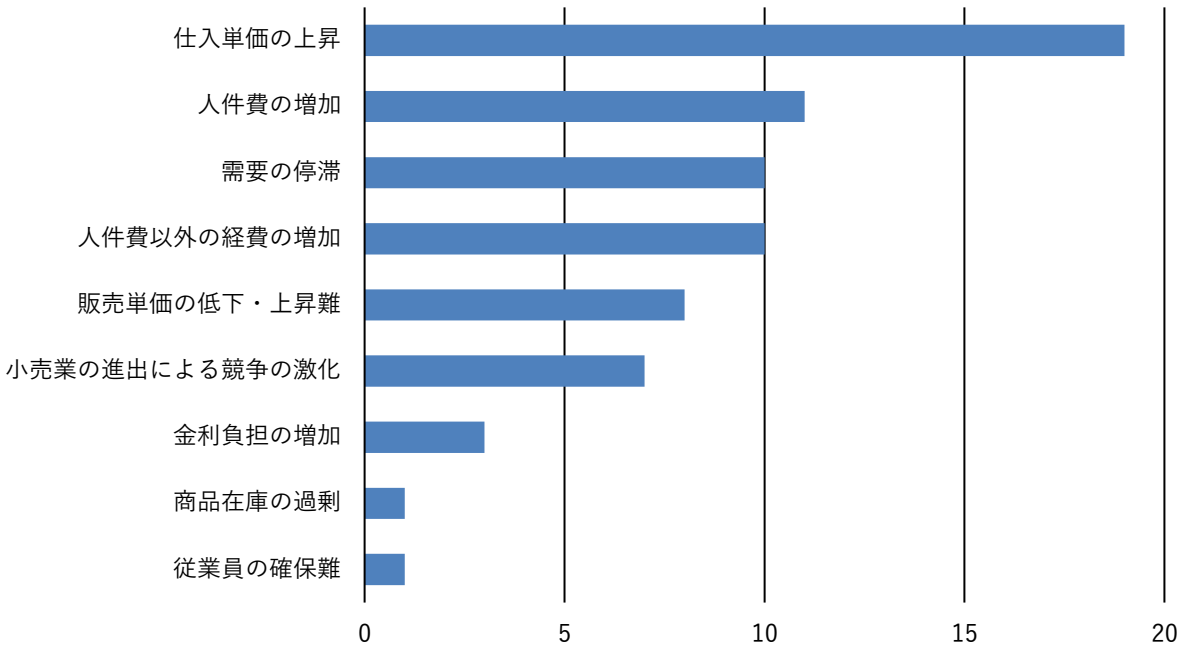
設備投資を実施した企業の割合は18.8%で、前年同期と比べ12.6%低下しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、「付帯施設」（同位）でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は25.0%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「需要の停滞」、「人件費以外の経費の増加」（同位）の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■国内需要が安定してきている。（食料・飲料）
■少し落ち着いてきた。仕入価格が運搬費や人件費等の増加により再び値上がりしている。（建築材料）
■板金関係の売上が悪く、不調だった。（自動車部品）
■原油の仕入価格上昇分を売上に反映させることができた。（石油）
■引合いが少なく、売上も減少している。（鉱物・金属材料）
■仕入価格の値上がり分を販売価格に転嫁できない。買い控えにより売上が減少した。（包装資材）
■売上は昨年同期と変わらなかった。（事務用品）
■前半が好調だったため、トータルで前年並みとなった。（貿易）

［来期の業況について］

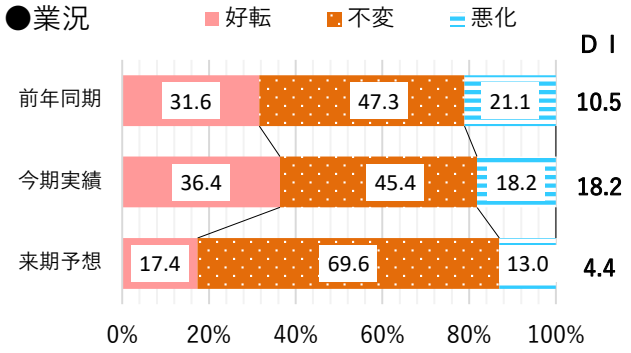
■値上げ前価格で対応する工事が予定されているが、その後需要が減り、冷え込む不安がある。（建築材料）
■輸入品（バッテリー類等の消耗品）の価格が高騰しており、今後もこの傾向が見込まれる。（自動車部品）
■今期と変わらない状況が続くと思われる。（石油）
■より一層引合いが少なくなると思われる。利益確保に努めたいが、従業員の平均年齢が上がり、人件費の負担が重くなって来た。（鉱物・金属材料）
■業況回復の目途は立たないが、好転を目指す。（包装資材）
■売上は変わらないと思われる。（事務用品）
■輸出規制品目の拡大と、ロシアの外貨（ドル）入手状況が懸念される。（貿易）

小　売　業

業況、売上、採算

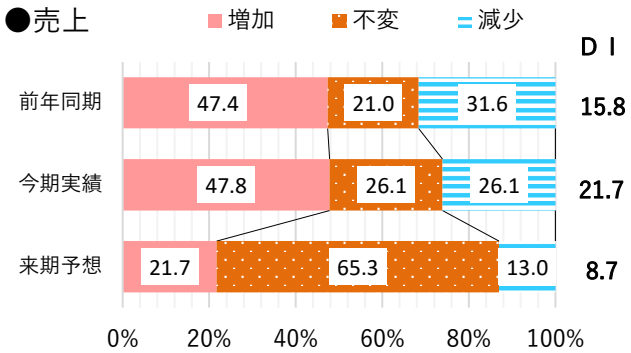
今期(2024.4～6)の業況判断DIは18.2で、前年同期(2023.4～6)と比べ7.7ポイント上昇しました。

来期(2024.7～9)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



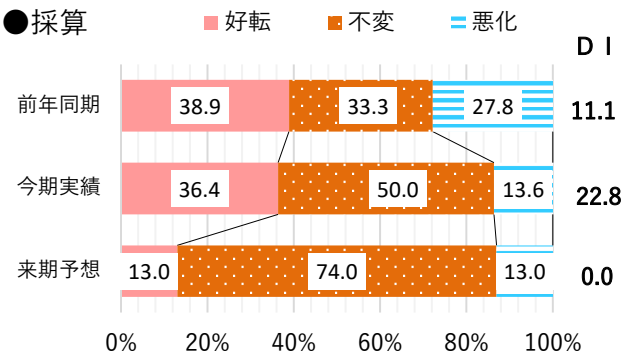
今期の売上高DIは21.7で、前年同期と比べ5.9ポイント上昇しました。

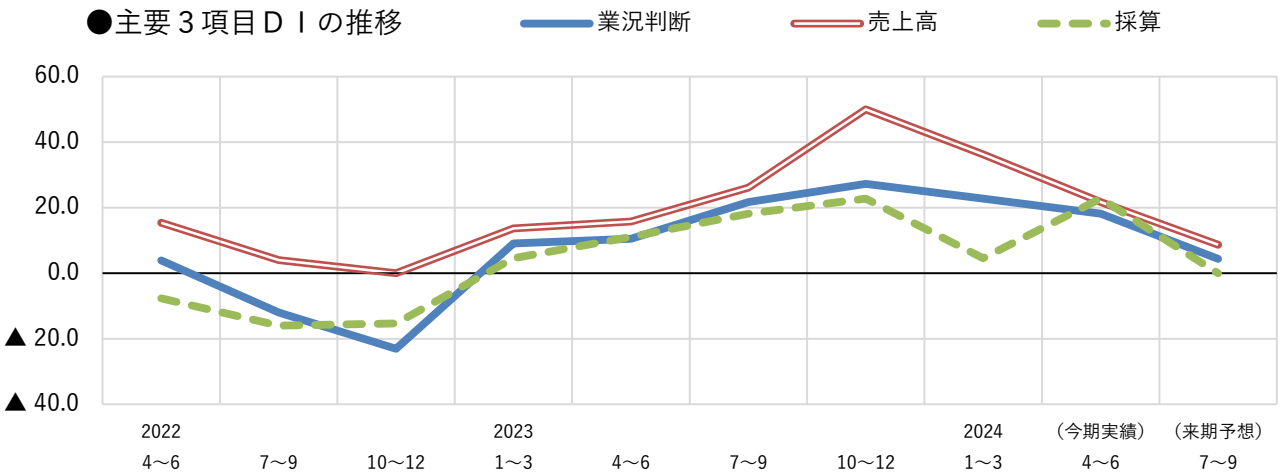
来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは22.8で、前年同期と比べ11.7ポイント上昇しました。

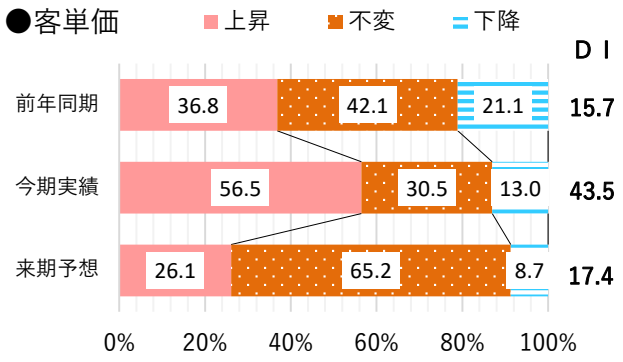
来期は、採算の好転傾向が弱まると予想しています。



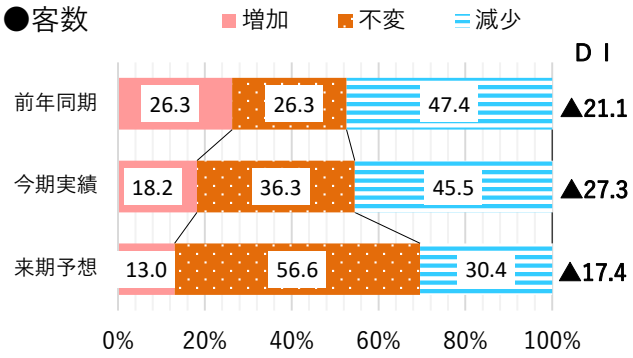


客単価、客数

今期の客単価DIは43.5で、前年同期と比べ27.8ポイント上昇しました。
来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。

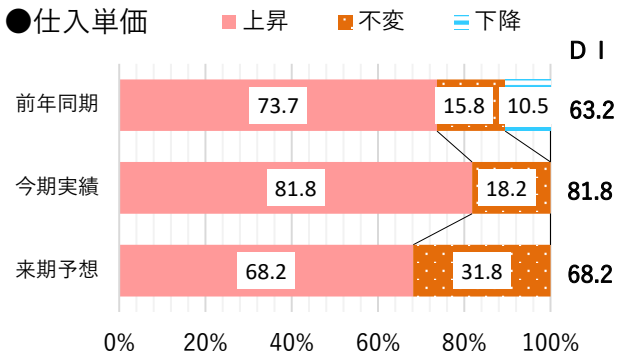


今期の客数DIは▲27.3で、前年同期と比べ6.2ポイント低下しました。
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。

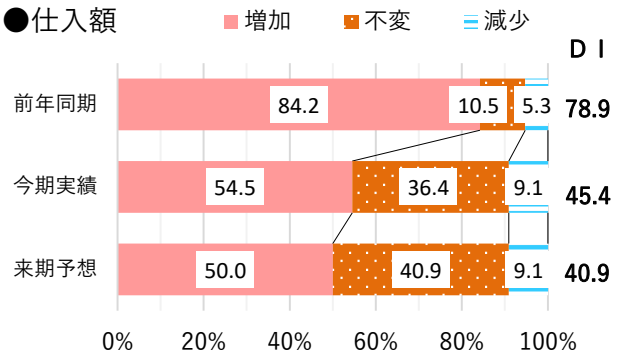


商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

今期の仕入単価DIは81.8で、前年同期と比べ18.6ポイント上昇しました。
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。

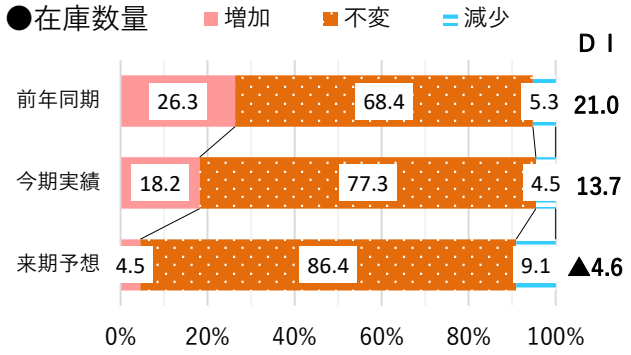


今期の仕入額DIは45.4で、前年同期と比べ33.5ポイントと大幅に低下しました。
来期は、仕入額の増加傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは13.7で、前年同期と比べ7.3ポイント低下しました。

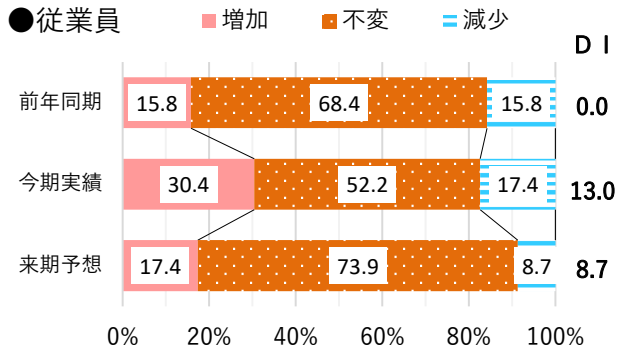
来期は、在庫数量がマイナスに転じると予想しています。



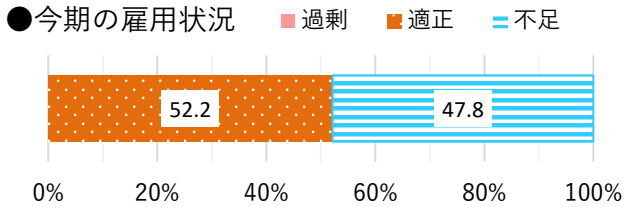
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは13.0で、前年同期と比べ13.0ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合はなく、適正であると回答した企業の割合は52.2%、不足していると回答した企業の割合は47.8%でした。



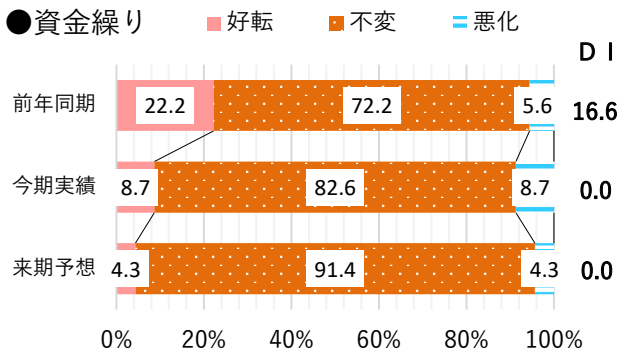
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、26.0%を占めており、47.8%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	5
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

資金繰り、設備投資

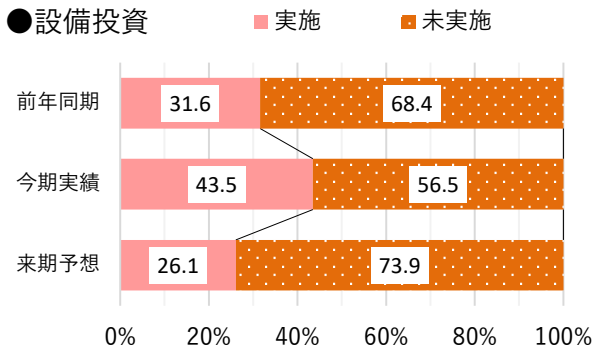
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ16.6ポイント低下しました。

来期は、資金繰りに変化はないと予想しています。



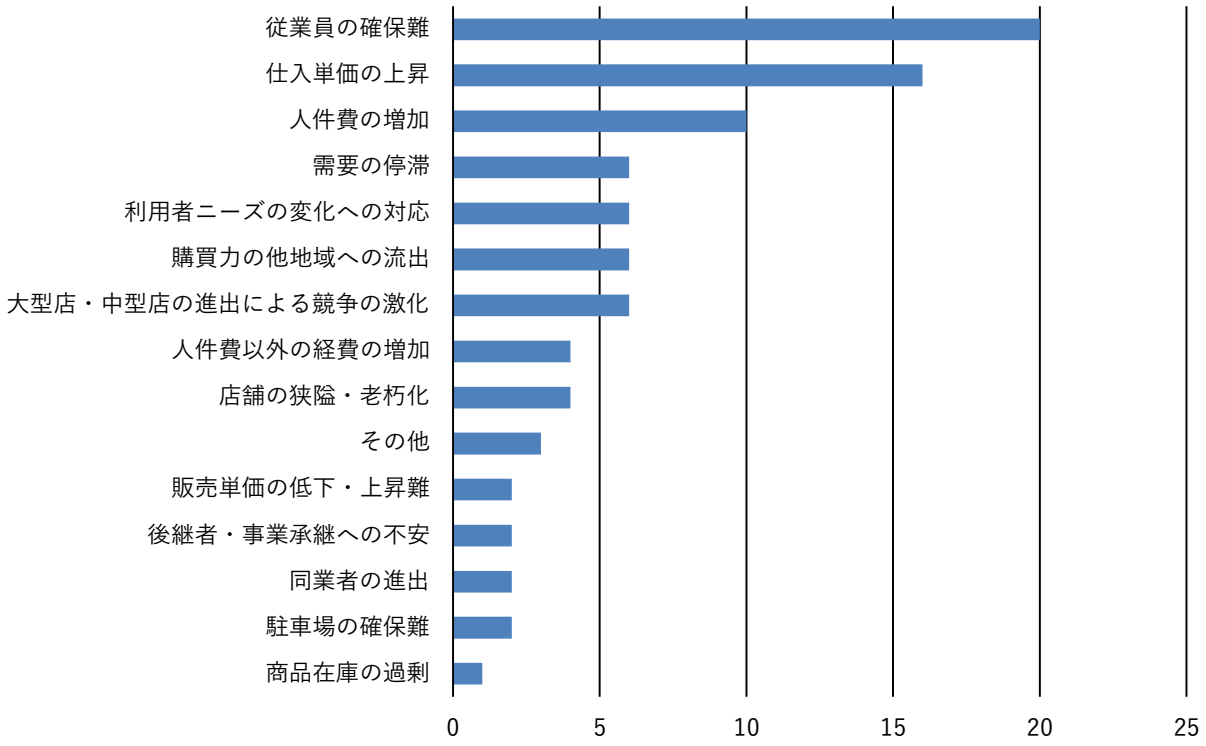
設備投資を実施した企業の割合は43.5%で、前年同期と比べ11.9%上昇しました。投資内容は1位が「販売設備」、2位が「車両運搬具」、「ＯＡ機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は26.1%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■昨年の猛暑の記憶もあり、季節家電や夏物衣料品が早い時期から動いた。加工食品は堅調だが、生鮮食品は相場の高騰もあり、全体的に不振だった。インバウンドの来客は昨年度比で１８０％と好調だったが、物価高による買い控えもあり、来店頻度は低下している。（大型店）

■客足が外食や観光に向いているのか、節約志向なのか、客足は鈍いように感じる。（大型店）

■仕入単価が上昇している。（大型店）

■観光業の回復や商品単価の上昇などから売上は増加しているが、同時に粗利益率が圧縮されている商品も一部あり、今後の値上げ受け入れ要請が必要だ。また、あらゆる経費が増加傾向にあり、同額の粗利益を確保しても経常利益は減少するので、対策が必要となる。（食料品）

■値上げを実施したが、仕入等の値上げがまたあり、どこまで効果が出るのが疑問だ。（菓子製造小売）

■前期受注した車両の納期が前倒しされたことで、売上が増えた。（自動車）

■円安により売上が増加した。（自動車）

■新車供給量が増加した。（自動車）

■市民の家計が苦しくなり、売上は一層落ち込むと思われる。（衣服・身の回り品）

■エアコンの販売が好調で、全体の実績を底上げした。客数は減少傾向だが、エアコンの販売により客単価が引き上げられた。（家電量販店）

■客数が前年比９７％程度と少なく、売上の減少に直結している。（ホームセンター）

■店舗の改装を実施した。（ホームセンター）

■ガソリン、電気といったエネルギーコストの上昇が止まらない。（コンビニ）

［来期の業況について］

■今期の流れが続くと予想しているが、賃上げやボーナス、定額減税、イベントとしてパリで開催される夏季オリンピックもあるため、今期よりは節約志向が弱まると思う。（大型店）

■商品単価の上昇や経費の増大は今後も注意が必要だ。（食料品）

■来期は繁忙期にあたるため、売上は増加するが、原材料、包装資材等の値上げが予定されており、利益は圧縮されると思う。（菓子製造小売）

■業界の不祥事により、車両販売が苦戦すると思われる。（自動車）

■今期の状況と変わらないと思われる。（自動車）

■市民の家計状況の二極化が加速し、単価が低い商品の売上が大半になると思う。（衣服・身の回り品）

■前年度はエアコンの売上で実績が伸びたが、今年度は前倒しでエアコン需要があったため、来期は少し落ち着くと思われる。冷蔵庫やテレビといった他の商品がある程度伸びると見ており、エアコン需要が落ち込む分をカバーして、売上は前年同期と大きく変わらないと見ている。（家電量販店）

■インバウンドの状況によるが、市の人口が減少する中で好転するとは思えない。（ドラッグストア）

■弊社が入居している施設全体での客数増加に向けた対策が必要だ。（ホームセンター）

■引き続き店舗改装に取り組む。（ホームセンター）

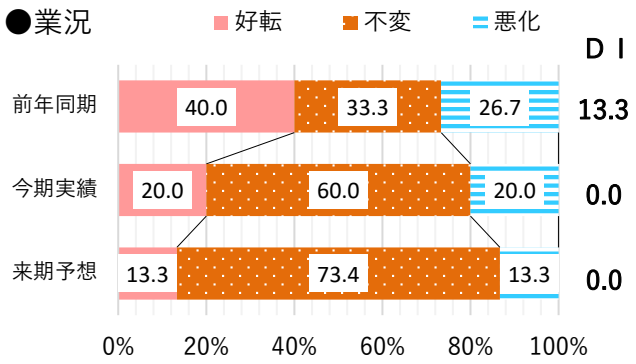
■最低賃金を１，５００円まで引き上げるなら、人材の採用自体を控えるかもしれない。（コンビニ）

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

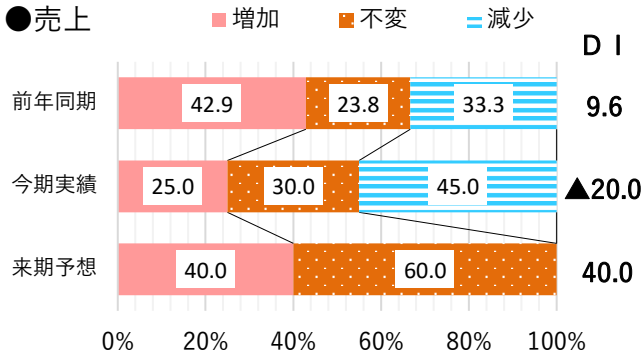
今期（2024.4～6）の業況判断DIは0.0で、前年同期（2023.4～6）と比べ13.3ポイント低下しました。

来期（2024.7～9）は、業況の横ばいを予想しています。



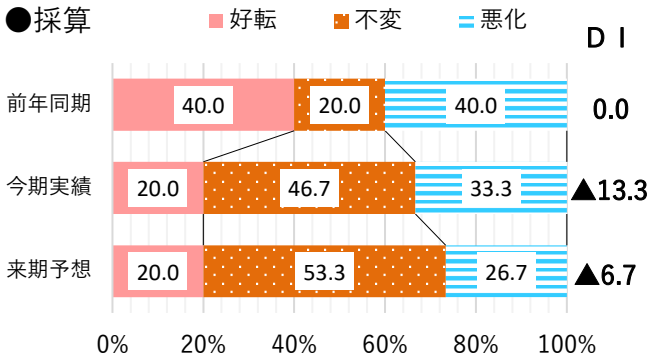
今期の売上高DIは▲20.0で、前年同期と比べ29.6ポイント低下し、マイナスに転じました。

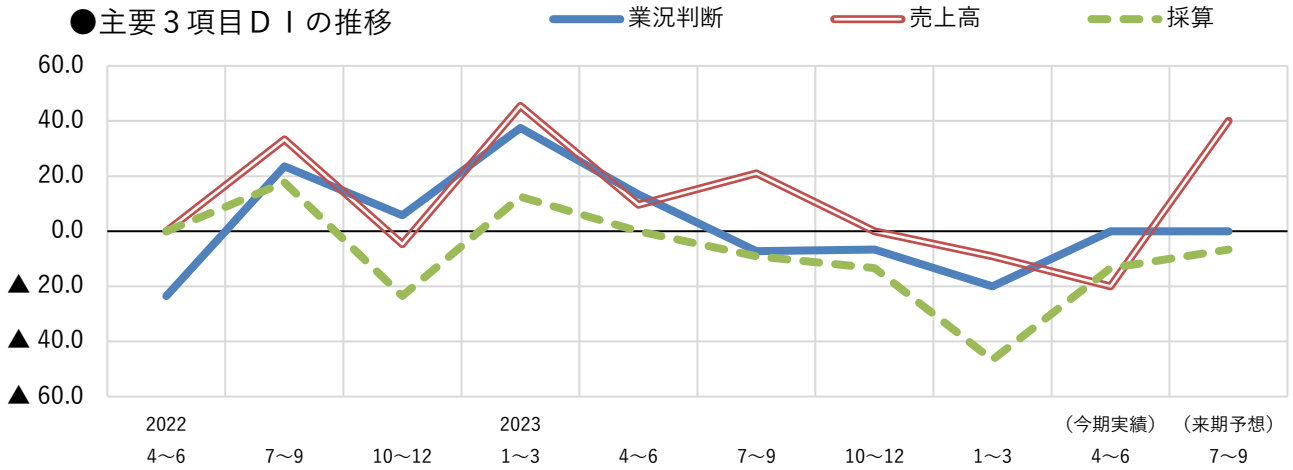
来期は、売上が大幅に増加しプラスに転じると予想しています。



今期の採算DIは▲13.3で、前年同期と比べ13.3ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。

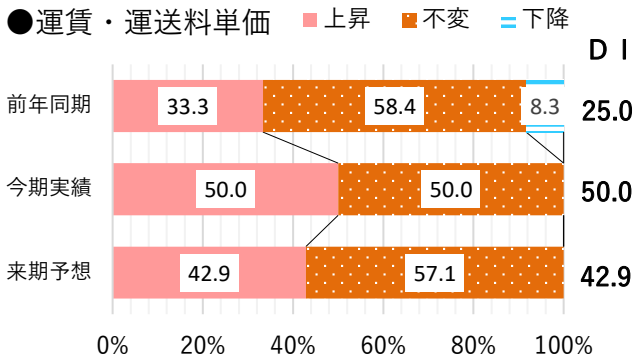




運賃・運送料単価、保管料単価

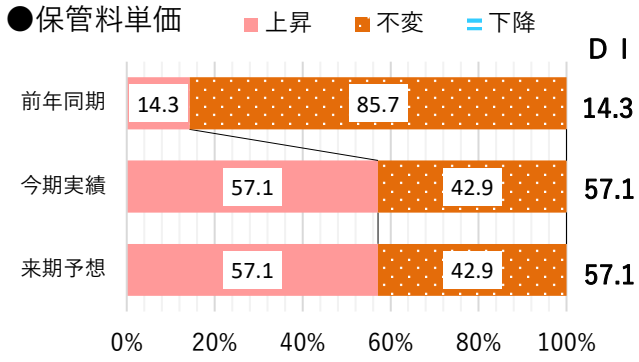
今期の運賃・運送料単価DIは50.0で、前年同期と比べ25.0ポイント上昇しました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の保管料単価DIは57.1で、前年同期と比べ42.8ポイントと大幅に上昇しました。

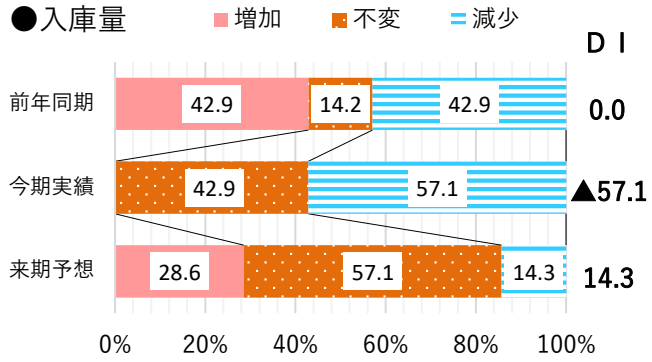
来期は、保管料単価の横ばいを予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

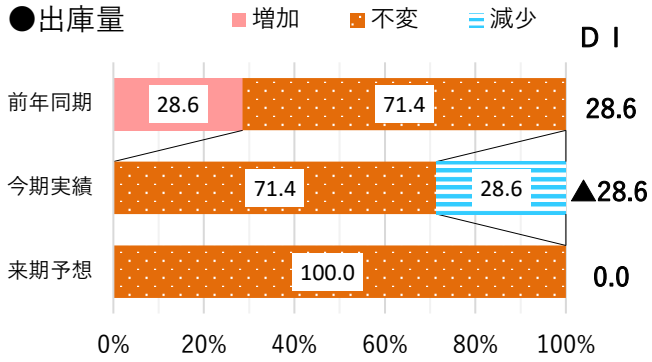
今期の入庫量DIは▲57.1で、前年同期と比べ57.1ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、入庫量が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



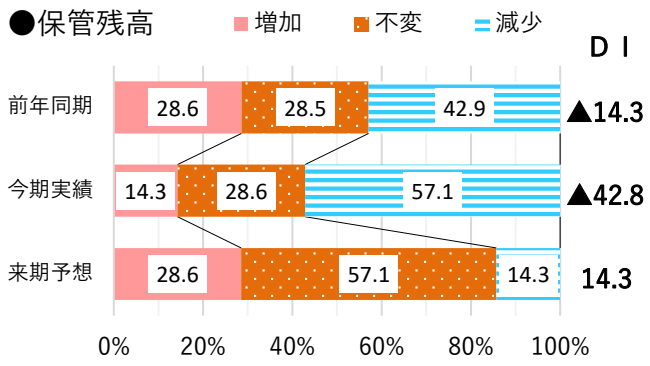
今期の出庫量DIは▲28.6で、前年同期と比べ57.2ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、出庫量の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の保管残高DIは▲42.8で、前年同期と比べ28.5ポイント低下しました。

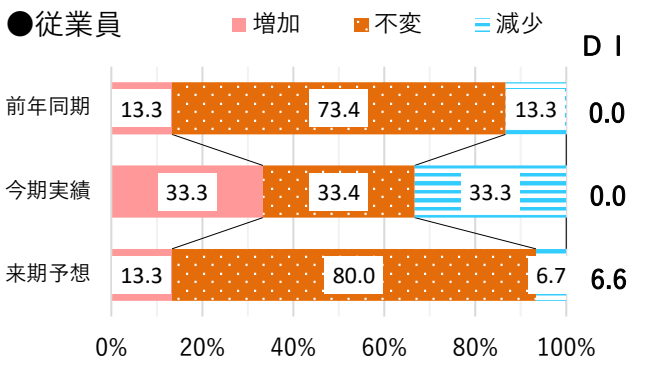
来期は、保管残高が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



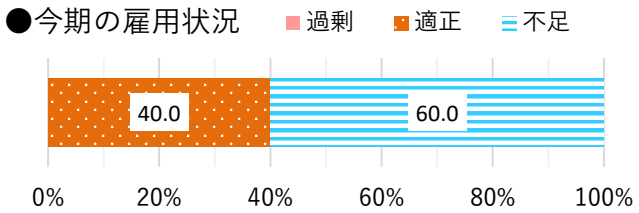
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期から変化はありませんでした。

来期は、従業員数の増加を予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は40.0%、不足していると回答した企業の割合は60.0%でした。



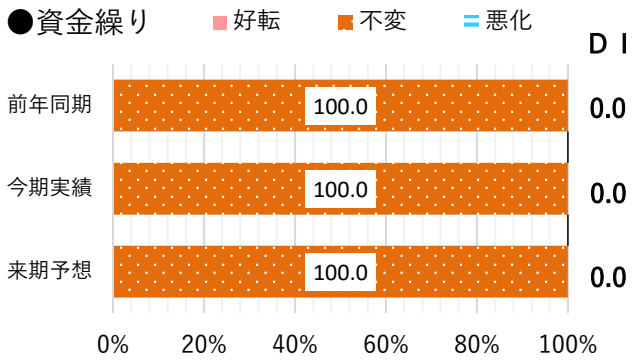
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、26.6%を占めました。60.0%の企業は従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	3
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

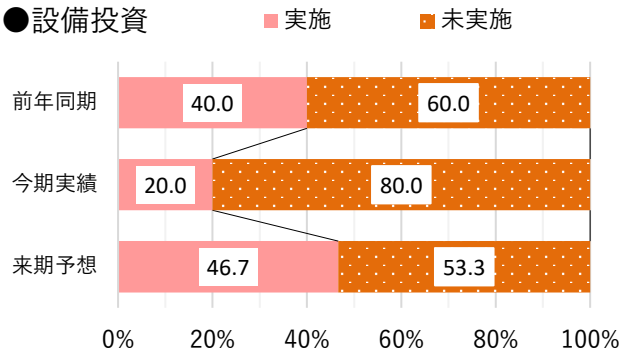
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期から変化はありませんでした。

来期も、資金繰りに変化はないと予想しています。



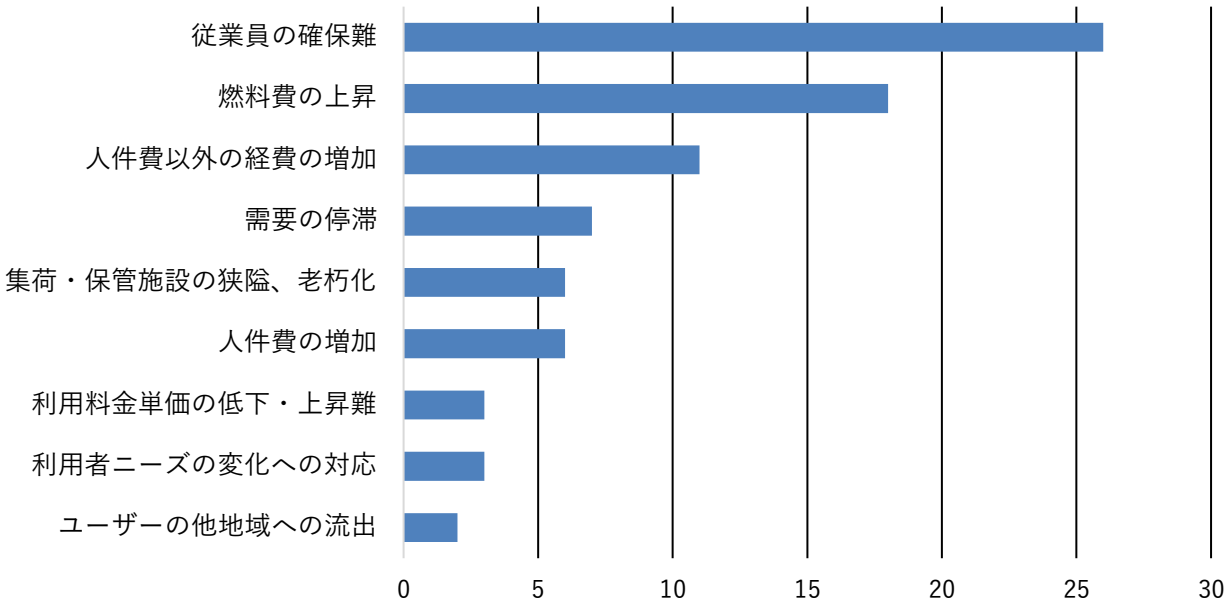
設備投資を実施した企業の割合は20.0%で、前年同期と比べ20.0%低下しました。投資内容は、1位が「付帯施設」、2位が「輸送機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は46.7％で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「燃料費の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■仕入価格は依然として上昇傾向にある。人件費は同業他社よりも高く設定しているが、売上の増加、業務品質の向上により利益率が高くなった。（道路貨物運送）
■値上げ要請等により売上は増加傾向にあるが、賃金等経費の増加によりほぼ相殺される。（道路貨物運送）
■運賃単価を引き上げたため、収入が増加した。（道路貨物運送）
■市内飼料工場の閉鎖に伴い、作業収入が減少した。既存業務では値上げ交渉を継続している。（港湾運送）
■燃料費、人件費、その他経費の上昇で利益の確保が難しい。（道路旅客運送）
■売上額が減少した。人材不足が続いている。（道路旅客運送）
■運送収入の増加率が伸びた。（道路旅客運送）
■コンテナの入庫遅れにより、保管貨物が減少した。（倉庫）
■入庫量の減少により、売上も減少した。（倉庫）
■旅客はゴールデンウィークの日並びの関係か、利用者は昨年度より減少した。貨物はキャンペーンの効果があり、今後も増加が見込める。（水運）

［来期の業況について］

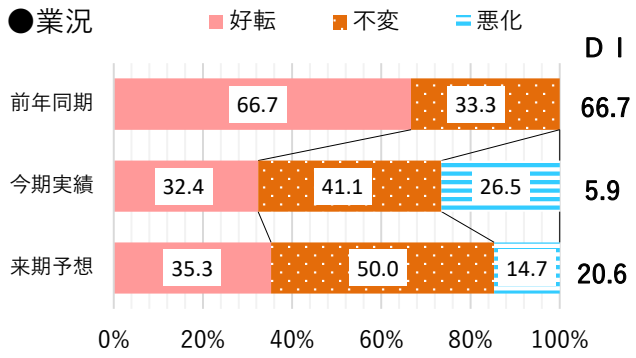
■今期同様、売上の増加傾向を見込むが、経費増加によって相殺されるだろう。（道路貨物運送）
■突発的需要があった前年同期と比較すると、横ばいもしくは減少を見込む。（道路貨物運送）
■引き続き運送収入の増加が期待できる。（道路旅客運送）
■経費の増加による利益の減少が続く。（道路旅客運送）
■人材の確保に期待する。（道路旅客運送）
■今期入庫が遅れた分の貨物が繰り越されるため、売上の増加を見込む。（倉庫）
■引き続き入庫量の減少を予想する。（倉庫）
■旅客の旅行需要と繁忙期のため、増加を見込む。貨物はキャンペーン効果と農産物の輸送が始まるため、増加を予想する。（水運）

観光業

業況、売上、採算

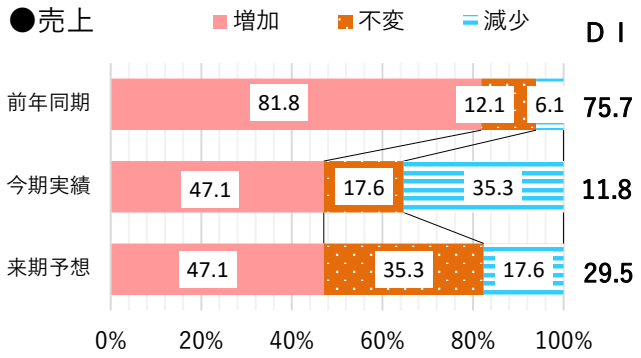
今期（2024.4～6）の業況判断DIは5.9で、前年同期(2023.4～6)と比べ60.8ポイントと大幅に低下しました。

来期（2024.7～9）は、業況の好転傾向が強まると予想しています。



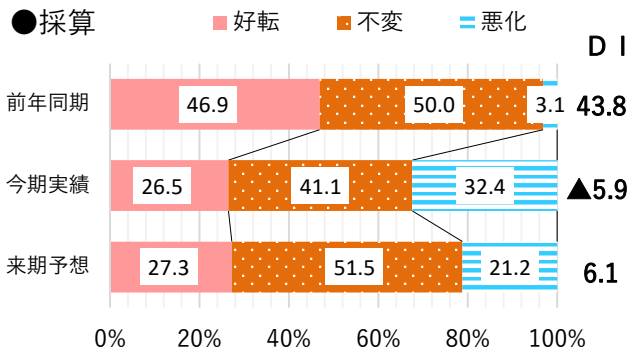
今期の売上DIは11.8で、前年同期と比べ63.9ポイントと大幅に低下しました。

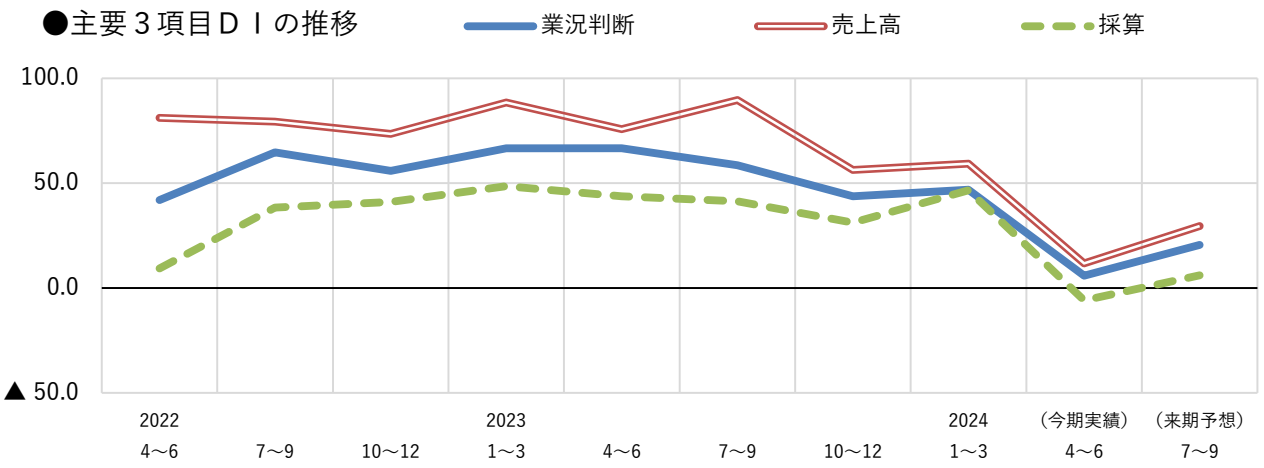
来期は、売上の増加傾向が強まると予想しています。



今期の採算DIは▲5.9で、前年同期と比べ49.7ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

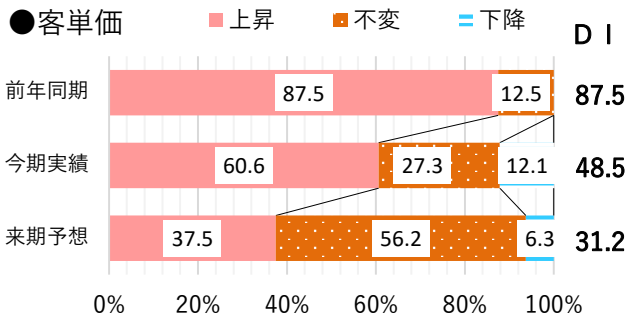
来期は、採算の好転を予想しています。



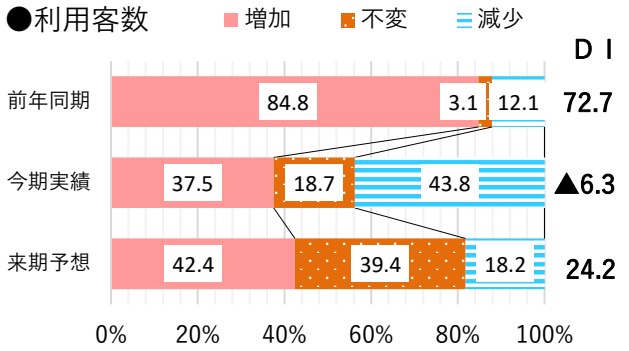


客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

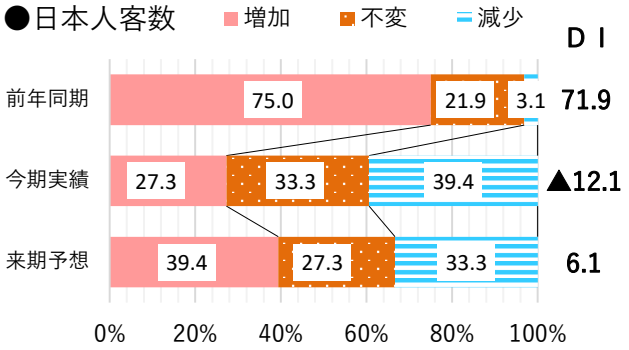
今期の客単価DIは48.5で、前年同期と比べ39.0ポイントと大幅に低下しました。
来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



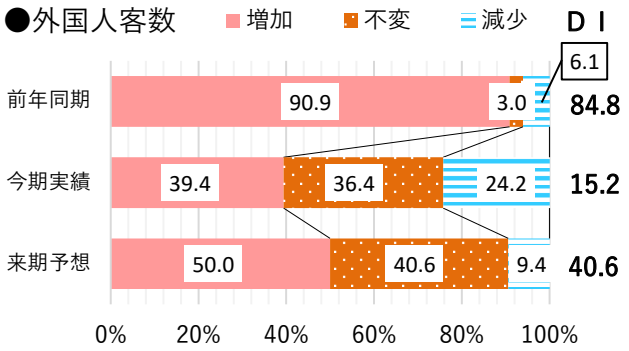
今期の利用客数DIは▲6.3で、前年同期と比べ79.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。
来期は、利用客数が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



今期の日本人客数DIは▲12.1で、前年同期と比べ84.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。
来期は、日本人客数が増加し、プラスに転じると予想しています。



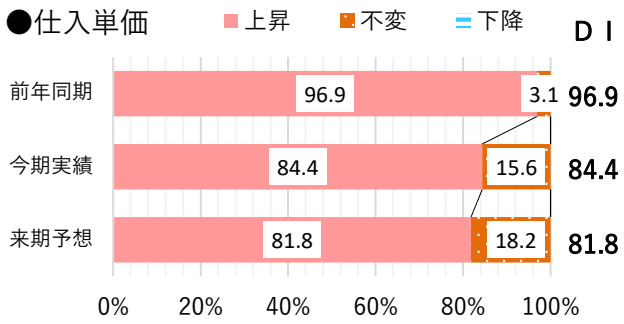
今期の外国人客数DIは15.2で、前年同期と比べ69.6ポイントと大幅に低下しました。
来期は、外国人客数の増加傾向が強まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは84.4で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

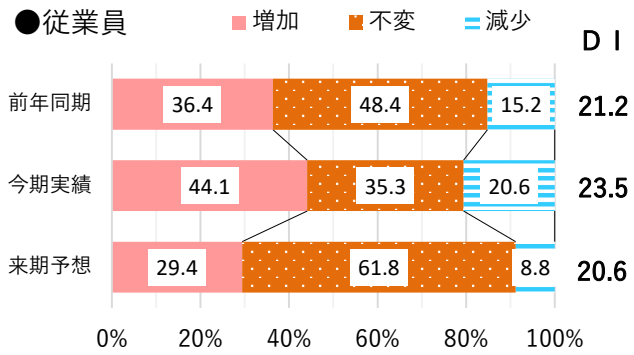
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



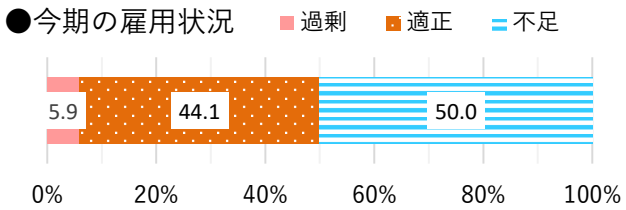
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは23.5で、前年同期と比べ2.3ポイント上昇しました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.9%、適正であると回答した企業の割合は44.1%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。



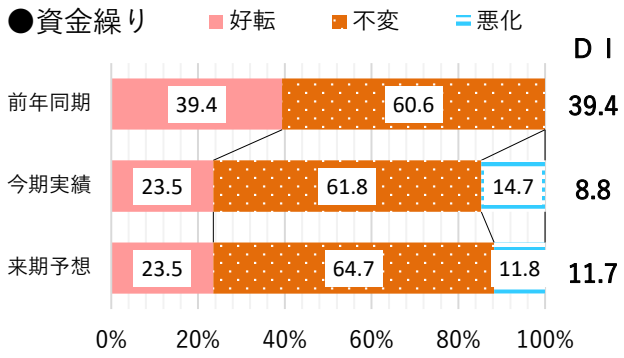
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」という回答で、26.4%を占めました。回答全体では50.0%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	2
	適正	9
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	5
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	6

資金繰り、設備投資

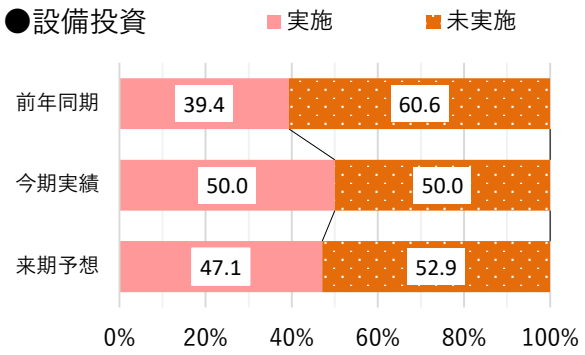
今期の資金繰りDIは8.8で、前年同期と比べ30.6ポイントと大幅に低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向に大きな変化はないと予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べて10.6%上昇しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「サービス設備」、「付帯施設」（同位）の順です。

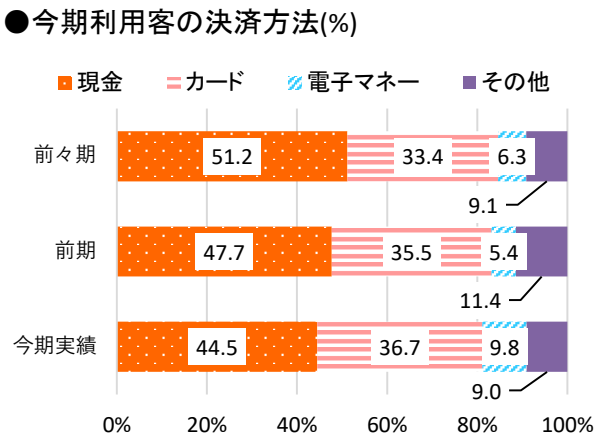
来期に設備投資を計画している企業の割合は47.1%で、減少を予想しています。



今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で44.5%、2位がカードで36.7%、3位が電子マネーで9.8%、4位がその他で9.0%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、掛売り、クーポン券、金券、銀行振込、ＯＴＡ（Online Travel Agent）決済です。

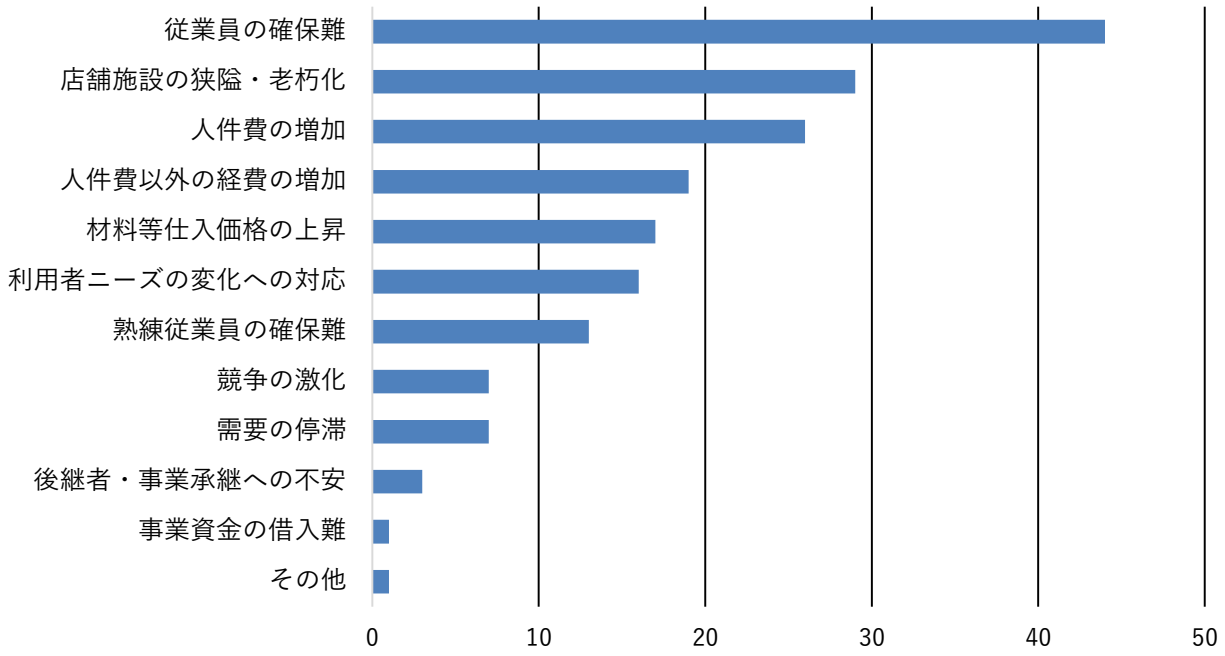


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は62.1%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「店舗施設の狭隘・老朽化」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■昨年同期はコロナ禍の行動制限が解除直後で、観光振興の公的助成などが加わり、観光に勢いがあった。今期は勢いが無くなり、諸物価の高騰などで国内客の来店、購買意欲にかなりの減退が見られ、販売単価も低下している。昨年は増加していた韓国からの観光客がやや減少し、購買意欲も落ちている。現状はいずれもさほど大きくない減少幅だが、先行きを懸念している。原材料の高騰により、販売価格を上げたことも、購入意欲を減退させた可能性が高い。コロナ禍の頃に比べると商機には恵まれているが、人手不足で十分な対応が出来ず、売り逃しが多くなっている。観光業なので、現在は年中無休で営業しており、定休日の設定などの対応策を検討しているが、更に商機を失う可能性を懸念している。人手不足問題は、個々の企業では如何ともし難い問題なので、国や地域で強力な対応策を実施して欲しい。（土産品）

■設備投資（施設、外構工事、駐車場等）を行い、補助金を受給したが、償却の負担が大きい。（土産品）

■海外客は増えているが、国内客は減少している印象がある。（土産品）

■原材料生産者が不足し、原料不足の状況にある。（土産品）

■不調だった昨年の反動が大きく、好調だった。（土産品）

■店舗の認知拡大により、売上が増加した。（土産品）

■売上高は前期と同程度で推移している。（土産品）

■休日を増やしたため、売上が減少した。（飲食店）

■国内客の動向は昨年並みだが、インバウンドが低迷しており、特に中国人観光客の戻りが良くない。札幌のホテルが供給過多のため、安価での販売が目立ち、観光客は札幌に流れている印象だ。（ホテル）

■仕入価格、人件費が上昇したため、商品単価を引き上げた。幸いインバウンドの利用は増加したが、トレンドに影響されているため、安心はできない。（ホテル）

■弊社は元々インバウンドの利用が少ないが、今年は特に少なかった。４～５月の国内客の減少も影響し、厳しい経営状況だった。（ホテル）

■客室平均単価の上昇により売上が増加したが、物価高による仕入価格の上昇と、業務過多による人員不足が課題だ。（ホテル）
■ゴールデンウィークが前年比で不調だった。インバウンドの利用が冬期と比べ急落した。（ホテル）
■人材確保難と経費の増加が課題だ。（ホテル）
■予約がコンスタントに入っている。（ホテル）
■仕入価格が安定しない。（ホテル）
■仕入価格、人件費は昨年に続き上昇している。設備のメンテナンスのため休業があり、売上が減少した。競合となるホテルが乱立している。（コテージ・ペンション）
■ゴールデンウィークの来客が思いのほか伸び悩んだ。燃料を始めとする価格高騰により、旅行等の意欲等の意欲が鈍化したのではないかと推察する。（社会教育）
■好調だった昨年と比べ、利用客が減少した。（レンタカー）
■インバウンドの利用が好調だった。（レンタカー）
■前年同期と比較し、売上、利用客ともに増加している。（水運業）
■会社知名度の向上により、売上が増加した。（娯楽業）

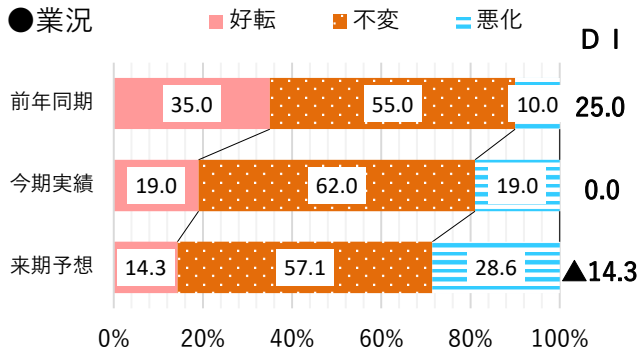
［来期の業況について］
■今期同様、前年同期に比べて大幅な来店客、売上高の減少の恐れは少ないと見ているが、国内外共に引き続き、勢いが徐々に減退して行くと予想している。値上げによって売上高が維持できているので、今後は出荷数量の減少、製造面でのコストアップの顕在化、事業効率の低下、ひいては採算の悪化も予想する。観光最盛期を迎えるが、人手不足に加えて夏の暑さで個々の社員への負担が増加し、業務意欲の減退、更なる人手不足など難しい局面が続く。綱渡りの事業運営を余儀なくされるものと覚悟しているが、対処はできない。（土産品）
■海外客の増加、国内客の減少はしばらく続くと思われる。（土産品）
■円安が続くと思われるので、インバウンドに期待する。（土産品）
■新事業の取り組みが始めるため、好転を見込む。（土産品）
■今期と同程度の推移を見込む。（土産品）
■販売施設の建設を予定する。（土産品）
■原材料不足の状況が続く。（土産品）
■北海道の観光シーズンに入るため多忙となるが、休日を増やしたい。（飲食店）
■国内の団体、ツアー客が堅調だと思われる。清掃やサービスの人員に欠員が出ると、労働の負担が増えてしまうのが悩み所だ。（ホテル）
■客室平均単価の上昇による売上増加と、仕入価格の上昇、業務過多による人員不足が続く。（ホテル）
■インバウンドのトレンドに影響されないようにしたいが、不安定な状況が懸念材料だ。（ホテル）
■売上が減少する要因はないが、異常気象の影響が心配だ。（ホテル）
■２０１９年度実績並みのインバウンドの回復を見据える。（ホテル）
■円安の影響もあり、今期の好況が続くと思われる。（ホテル）
■引き続き仕入価格は安定しないと思われる。（ホテル）
■インバウンド需要は増加するが、国内需要は減少すると思われる。（コテージ・ペンション）
■物価上昇による旅行等への意欲減退は夏も続き、引き続き厳しい状況が見込まれる。（社会教育）
■インバウンドの利用が好調だと思う。国内景気次第で日本人による売上も期待できる。（レンタカー）
■繁忙期にあたり、乗船客数、売上の増加が見込まれる。（水運業）

サービス業

業況、売上、採算

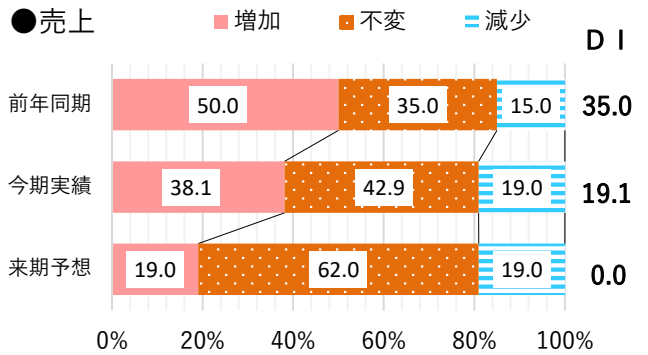
今期（2024.4～6）の業況判断DIは0.0で、前年同期(2023.4～6)と比べ25.0ポイント低下しました。

来期（2024.7～9）は、業況の悪化を予想しています。



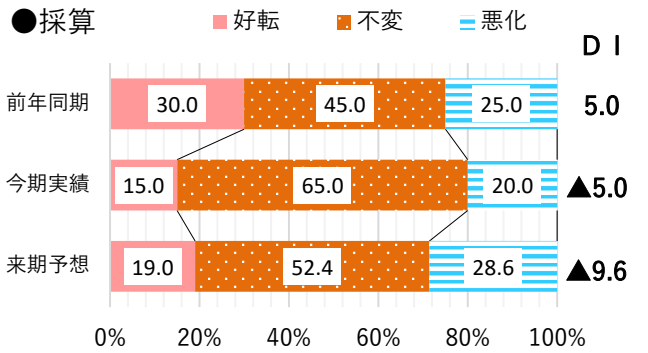
今期の売上高DIは19.1で、前年同期と比べ15.9ポイント低下しました。

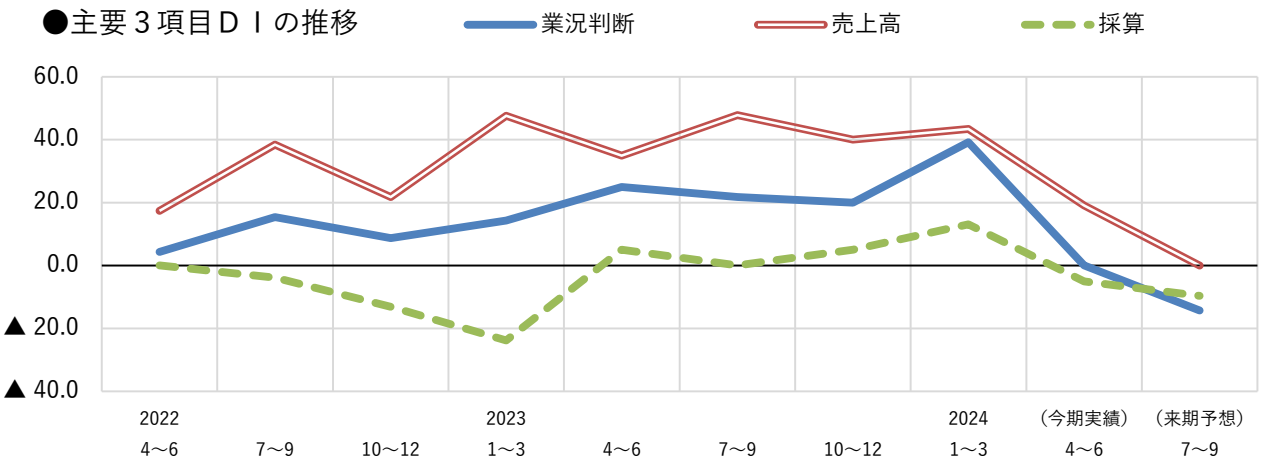
来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲5.0で、前年同期と比べ10.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。

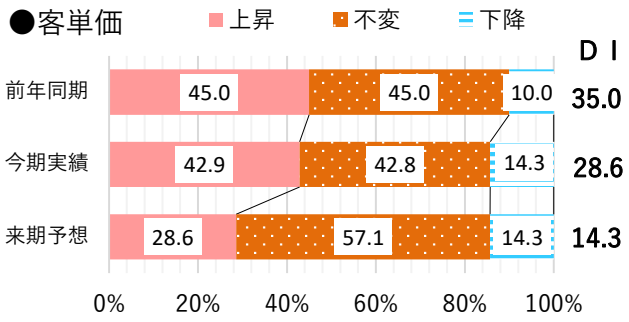




客単価、利用客数、仕入単価

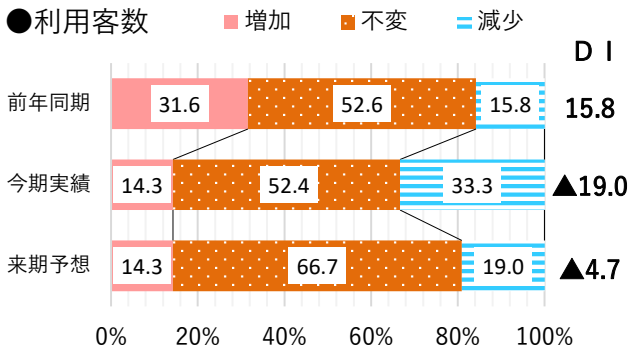
今期の客単価DIは28.6で、前年同期と比べ6.4ポイント低下しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



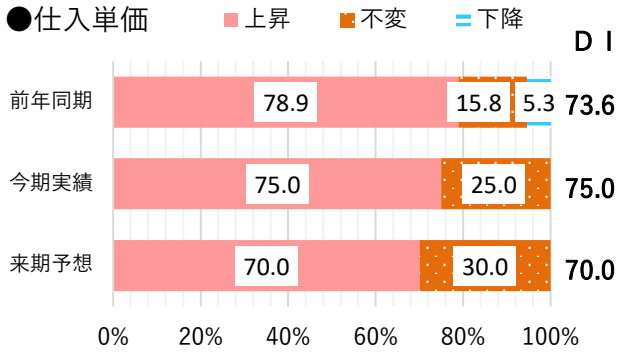
今期の利用客数DIは▲19.0で、前年同期と比べ34.8ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、利用客数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは75.0で、前年同期と比べ1.4ポイント上昇しました。

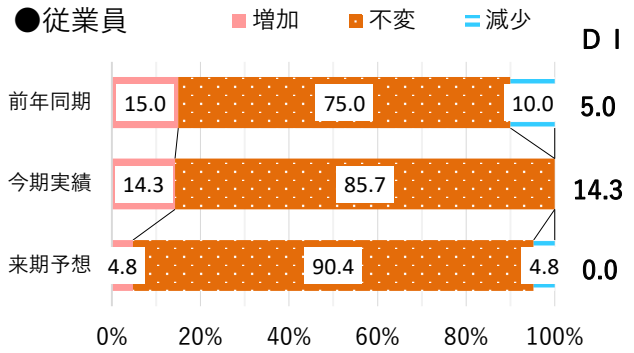
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



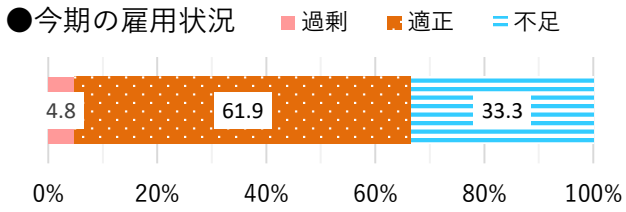
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは14.3で、前年同期と比べ9.3ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.8%、適正であると回答した企業の割合は61.9%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



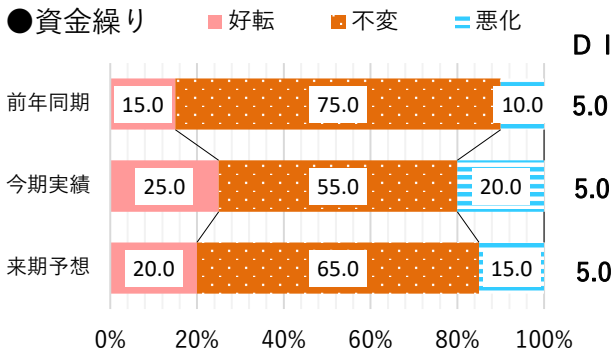
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、52.3%を占めました。回答全体では33.3%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	0

資金繰り、設備投資

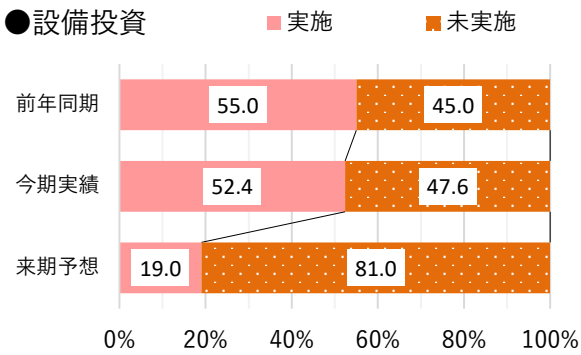
今期の資金繰りDIは5.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期も、資金繰りの横ばいを予想しています。



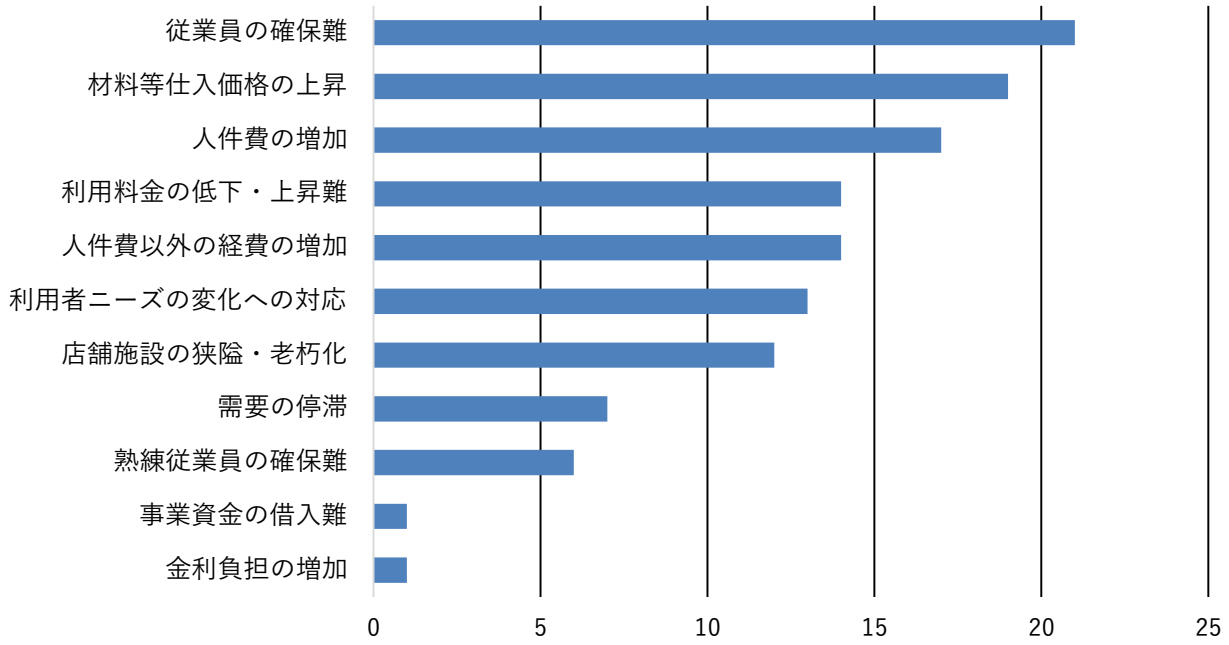
設備投資を実施した企業の割合は52.4%で、前年同期と比べ2.6%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「土地」、「サービス設備」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は19.0%で、大幅な減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■一昨年から客数は好転傾向だが、従業員を確保できず、１店舗閉店の状態にある。（飲食店）
■社会変動の早さについていくのが大変だ。（飲食店）
■人材不足のため、新規顧客との取引が難しい。（ビルメンテナンス）
■売上が増加した。（ビルメンテナンス）
■前年同期と同じくレギュラー業務は確保できたが、新規は無かった。仕入価格が上がったため、販売単価を上げざるを得えなかった。（写真業）
■デジタル化の波で、利用客と売上が減少した。（写真業）
■昨年末に価格改定をしたため、売上は増加し、客単価が上昇した。輸入商品の仕入価格が信じられないくらい上がっているため、売上が増加しても採算は変わらない。賃金が上がると、扶養控除の上限の範囲内で働きたい人は短時間労働を選ぶようになるため、人手不足になる。（美容業）
■旅行業以外の収益補完部門の取扱が減少した。旅行業のみの業況は不変だった。（旅行代理店）
■道内の同業者は客数が減少しているが、当社は社員を確保して、客数を増やしている。（スポーツ施設）

［来期の業況について］

■相変わらず仕入価格等の経費が増加しているが、夏場に向けてお客様が増えてくれば材料のロス等が減り、利益率も良くなる傾向にある。（飲食店）
■全て雇用状況に左右される。（飲食店）
■最低賃金を引き上げ、人材を増やさなければ対応できなくなることもあり得る。（ビルメンテナンス）
■今期同様、売上の増加が続くと思われる。（ビルメンテナンス）
■売上増加につながる要因が無いので、今期同様売上の減少を見込む。（写真業）

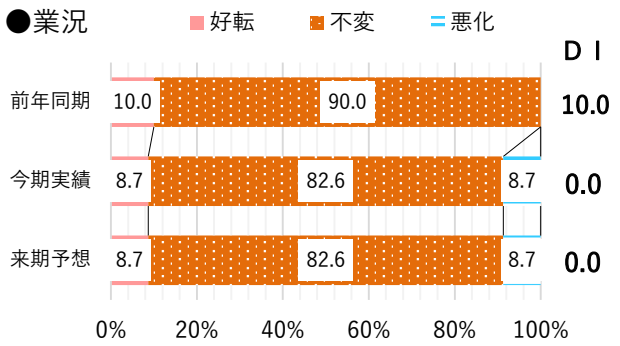
■売上や採算等は今期と同様の状況だと思う。物価上昇の影響が厳しいが、来店回数を増やしてもらえるように、顧客への提案に力を入れる。仕入価格や経費の値上げは少しずつ落ち着いてくると思われるので、経費の計算が安定してできるようになると、採算の見通しも明らかになってくると思う。（美容業）
■仕入価格、経費が増加傾向にあるが、販売価格への転嫁に苦労する見込みだ。（旅行代理店）
■今期は値上げで売上を維持したが、客数が減少し、採算や業況が悪化すると思う。（教養・技能教授業）

建　設　業

業況、売上、採算

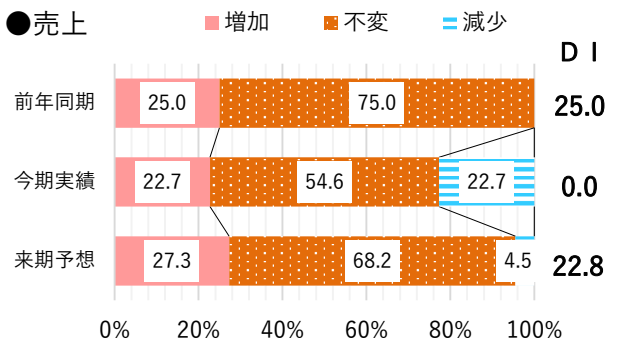
今期（2024.4～6）の業況判断DIは0.0で、前年同期(2023.4～6)と比べ10.0ポイント低下しました。

来期（2024.7～9）は、業況に変化はないと予想しています。



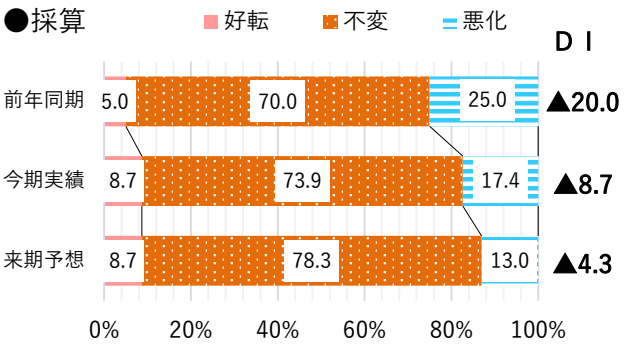
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ25.0ポイント低下しました。

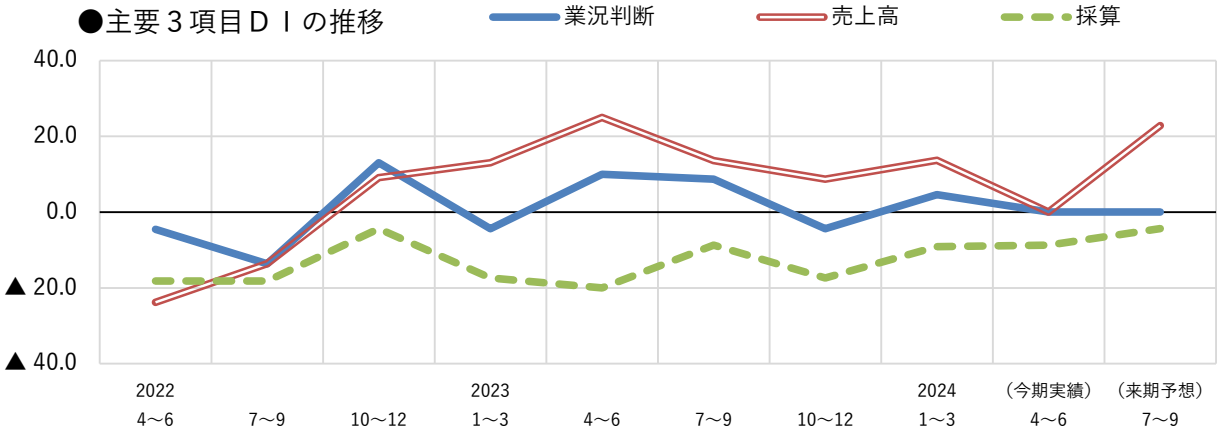
来期は、売上の増加を予想しています。



今期の採算DIは▲8.7で、前年同期と比べ11.3ポイント上昇しました。

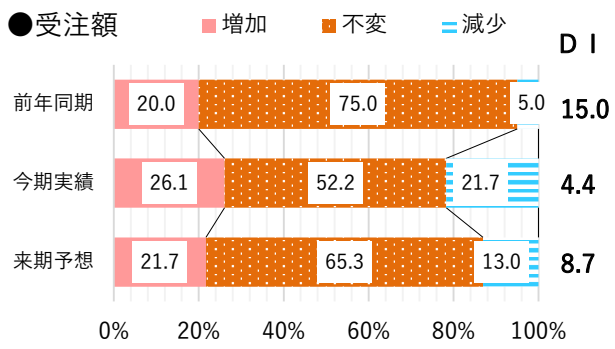
来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



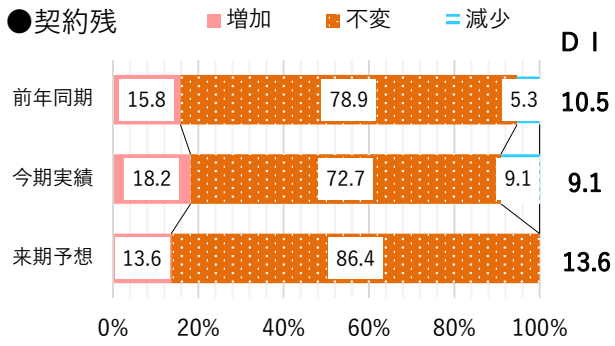


受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

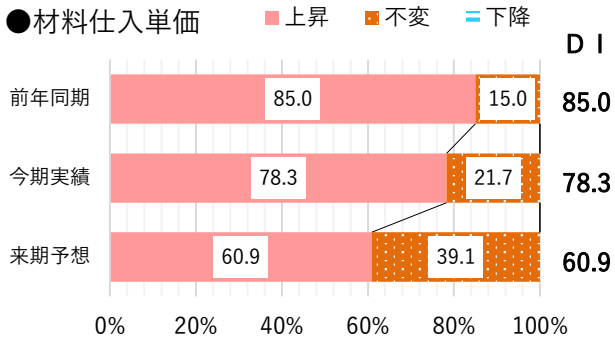
今期の受注額DIは4.4で、前年同期と比べ10.6ポイント低下しました。
来期は、受注額に大きな変化はないと予想しています。



今期の契約残DIは9.1で、前年同期と比べ1.4ポイント低下しました。
来期は、契約残に大きな変化はないと予想しています。

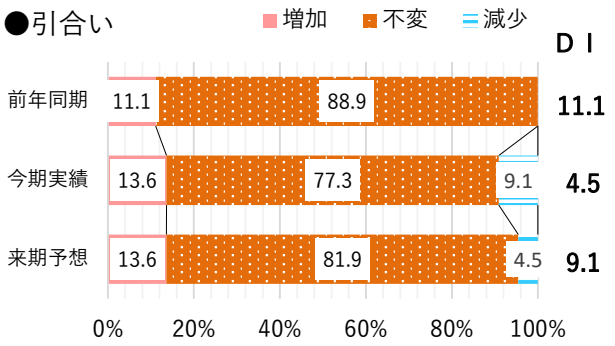


今期の材料仕入単価DIは78.3で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

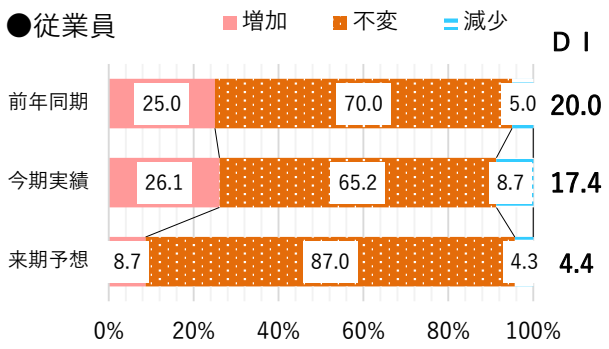
今期の引合いDIは4.5で、前年同期と比べ6.6ポイント低下しました。
来期は、引合いに大きな変化はないと予想しています。



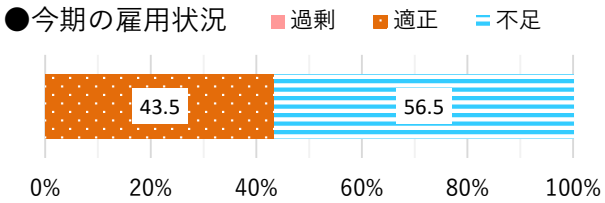
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは17.4で、前年同期と比べ2.6ポイント低下しました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は43.5%、不足していると回答した企業の割合は56.5%でした。



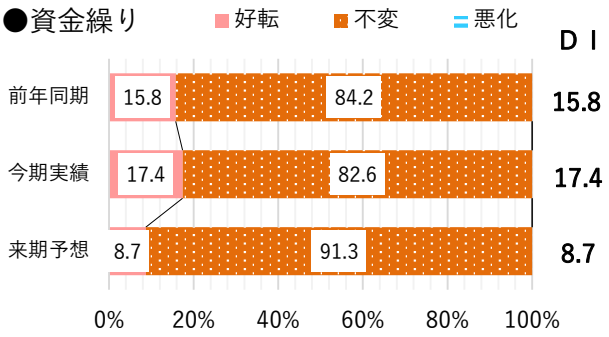
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、34.7%を占めました。回答全体では、56.5%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

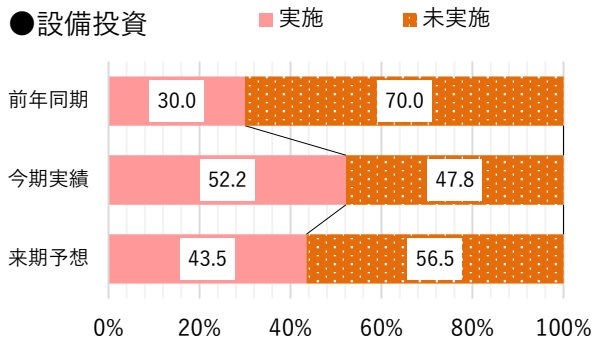
今期の資金繰りDIは17.4で、前年同期と比べ1.6ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



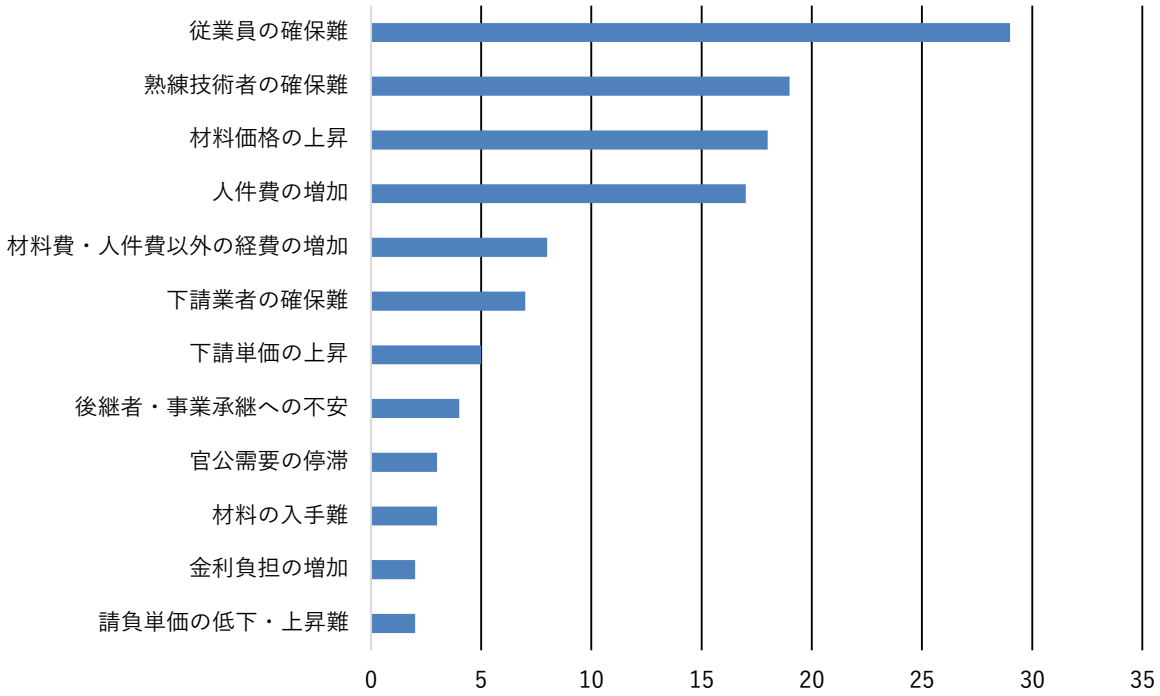
設備投資を実施した企業の割合は52.2%で、前年同期と比べ22.2%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、２位が「ＯＡ機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は43.5%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、２位が「熟練技術者の確保難」、3位が「材料価格の上昇」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■売上は不変だった。仕入価格は上昇が予想される。人材不足のため外国人を雇用した。（一般土木工事業）
■仕入価格の上昇等、マイナス要因をどのように吸収するかが引き続きの課題だ。（一般土木工事業）
■千歳のラピダス関連の工事で忙しかった。（一般土木工事業）
■受注額は変わらなかった。（一般土木工事業）
■人材不足により、常時フル稼働の状態にある。（一般管工事業）
■サッシやガラスの運搬費が上昇しており、１度の運搬に８，０００円程かかっている。（職別工事業）
■資材単価がどの程度上昇するのか読めず、価格転嫁の判断が難しい。（設備工事業）
■新規契約金額は微増だが、人件費、材料単価などが上昇した。（造園業）

■昨年同期比と変わりなかった。（造園業）
■人材確保が上手くできず、工事量に対応できない。（電気工事業）

［来期の業況について］
■仕入価格がどこまで上昇するか分からない。（一般土木工事業）
■今期と同程度の受注確保を目標にする。（一般土木工事業）
■人手不足解消の見通しが立たない。（一般管工事業）
■受注件数の減少を見込む。（職別工事業）
■資材単価の見通しが難しい。（設備工事業）
■取り巻く環境が不安定で、来期の業況は不透明だ。（造園業）
■人手不足が続き、受注工事を消化しきれない状況が続くと思われる。（電気工事業）

市内企業倒産状況

2024年4月~6月
負債１千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は2件、前年同期比不変
負債総額は2,000万円、前年同期比減少

倒産件数	負債総額
2件	**2,000万円**
前年同期比　件数　±0件 （前年同期　2件）	負債　-1億3,500万円 （前年同期 1億5,500万円）

■4月
居酒屋経営（負債1,000万円：販売不振による破産）の1件が発生した。

■5月
介護事業（負債1,000万円：販売不振による破産）の1件が発生した。

■6月
なし

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2024年4月~6月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は72件、前年同期比減少
新設着工住宅戸数は41棟41戸、前年同期比減少

建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
72件	**41棟41戸**
前年同期比　件数　-12件 （前年同期　84件） ※変更確認又は変更通知を除く。	戸数　-3棟48戸 （前年同期　44棟89戸）